

埋蔵文化財調査研究報告Ⅲ

しも きた かた
下 北 方 古 墳
— 遺 物 編 —

1990.3

宮崎県総合博物館

埋蔵文化財調査研究報告Ⅲ

しも きた かた
下 北 方 古 墳
— 遺 物 編 —

1990.3

宮崎県総合博物館

はじめに

近年の宅地開発や農業基盤整備等の開発は、住民の生活環境の改善に欠くことのできない事業である反面、先人の遺した貴重な文化遺産が絶えず消滅の危機にさらされているのも忘れてはならない事実であります。こうした中で、昭和57年10月2日に埋蔵文化財センターは県総合博物館の一部門として開設され、以後、埋蔵文化財の調査研究、保存活用等の事業で鋭意行って参りました。

ここに報告する「下北方古墳」は県教育委員会によって発掘調査が行われましたが、諸般の事情で公表が遅れていたものです。埋蔵文化財センターでは引きつづき、これらの出土品整理を精力的に進め、このたび「埋蔵文化財調査研究報告Ⅲ」として発刊の運びとなりました。

本書が学術および教育関係資料として広く活用されるとともに、文化財保護の一層の理解と地域文化解明の一助となれば幸いです。

平成2年3月

宮崎県総合博物館

館長 山本 一磨

例 言

1. 本書は、昭和26年8月に宮崎県教育委員会により発行された、『日向遺跡調査報告書第1輯』「宮崎市下北古墳調査報告」の遺物編である。発掘調査は昭和26年8月28日から9月6日にかけて実施された。
2. 発掘調査以来諸般の事情により報告が遅れていたが、埋蔵文化財センターの事業として平成元年度に整理を行い、その結果を報告するものである。
3. 整理には主任主事永友良典、整理専門員津隈久美子、整理作業員永峰まり子があたった。
4. 遺物の実測・製図は、津隈、永峰が行った。
5. 本書に掲載した遺物写真については永友が担当した。
6. 本書の執筆・編集は永友・津隈が行った。
7. 整理した遺物等の資料は台帳登録の上、博物館において保管している。
8. 出土土器の色調については、「新版標準土色帖」を使用した。
9. 本書に掲載した遺物の番号は、遺物台帳における遺物登録番号と一致する。
10. 形象埴輪の鑑定については、京都大学文学部助手菱田哲郎氏、同大学院生高橋克壽氏に御指導いただいた。

本文目次

I 調査の経緯	1
II 遺跡の環境	1
III 調査の結果	4
IV 出土遺物	5
1. 出土状況	5
2. 遺物	8
(1) 円筒埴輪	8
(2) 形象埴輪	9
V まとめ	10

挿図目次

第1図 遺跡分布図	2
第2図 古墳分布図	3
第3図 古墳測量図	5
第4図 埴輪配列概念図	6
第5図 埴輪出土状況実測図	6
第6図 出土埴輪実測図(1)	14
第7図 出土埴輪実測図(2)	15
第8図 出土埴輪実測図(3)	16
第9図 出土埴輪実測図(4)	17
第10図 出土埴輪実測図(5)	18
第11図 出土埴輪実測図(6)	19
第12図 出土埴輪実測図(7)	20
第13図 出土埴輪実測図(8)	21
第14図 出土埴輪実測図(9)	22
第15図 出土埴輪実測図(10)	23

表 目 次

第1表	県内埴輪出土表	13
第2表	出土埴輪観察表	24~34

図 版 目 次

図版1	円筒埴輪(1)	35
図版2	円筒埴輪(2)	36
図版3	円筒埴輪(3)	37
図版4	形象埴輪(人物)	38
図版5	形象埴輪(動物)	39
図版6	形象埴輪(人物・動物)	40
図版7	円筒埴輪・形象埴輪	41
図版8	形象埴輪(舟)	42

I 調査の経緯

昭和26年、県教育委員会に設置された文化財調査委員会が主体となって県内の古墳調査を行う日向遺跡調査団が組織された。調査団には斎藤忠（文部技官）と鏡山猛（九州考古学会会長）を迎え、第1回（昭和26年）に宮崎市下北方古墳、第2回（昭和28年1月）に福島町（現串間市）銭亀塚、第3回（同年9月）に日之影町新畑・大溜遺跡と日向市草場古墳などの発掘調査を行った。調査団組織は下記の通りであった。

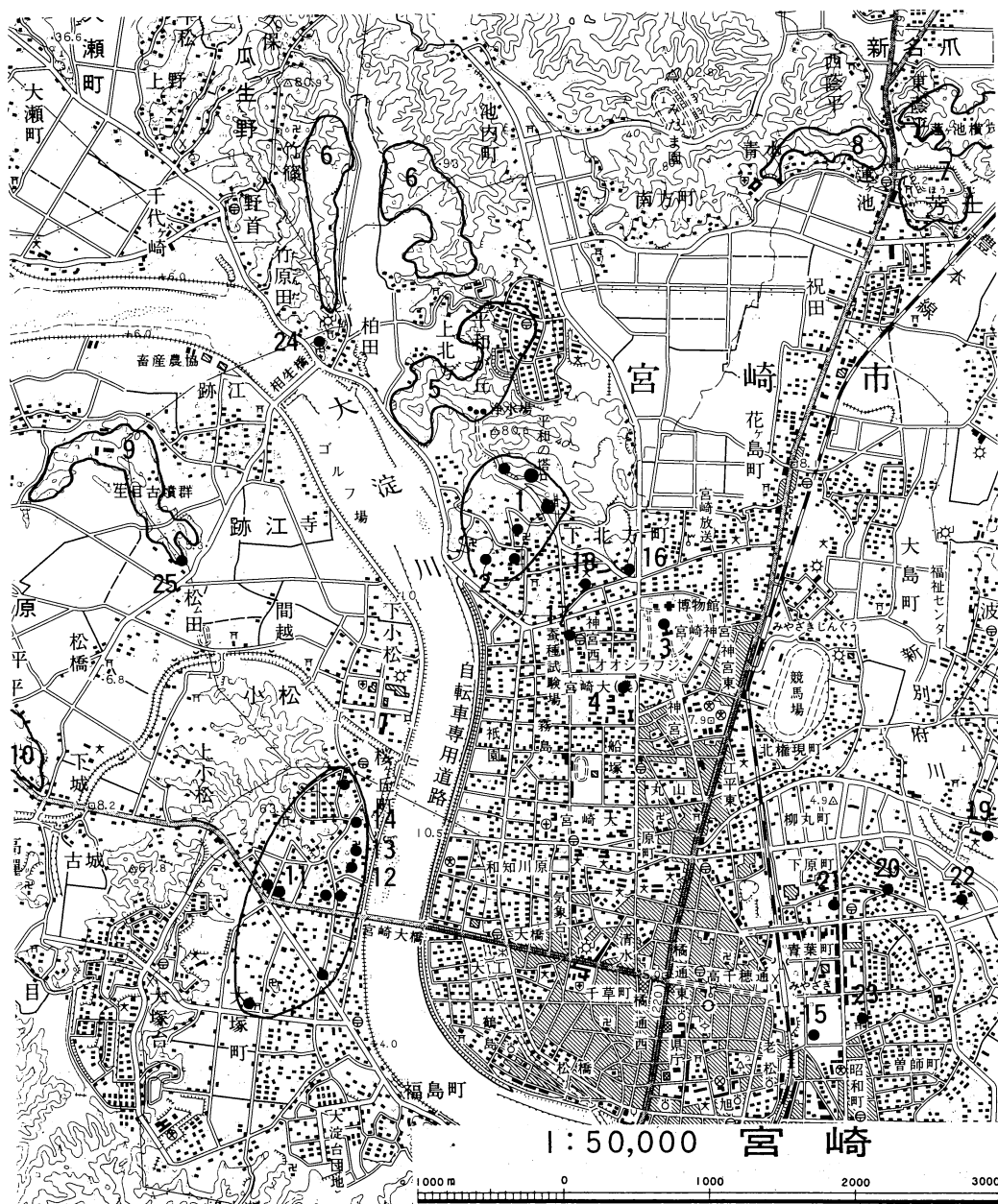
- 団 長 野村憲一郎（県教育長）
副 団 長 日高重孝（県文化財調査委員会議長）日高幸男（県社会教育課長）
調査委員 瀬之口伝九郎・石川恒太郎・前田厚・吉野忠行（県文化財調査委員）
幹 事 寺原俊文（県社会教育課主事）佐藤勝信（同管理係長）
榊宇佐夫（宮崎市教育課主事）
主 査 斎藤忠（文部技官）鏡山猛（九州考古学会会長）

下北方古墳の発掘調査は大塚初重（明治大学助手）も参加して昭和26年8月28日から9月6日までの10日間にわたって前方後円墳1基（1号）、円墳2基（2号・3号）の合計3基の古墳を調査した。

調査結果は昭和27年3月に県教育委員会が刊行した『日向遺跡調査報告第1輯』に「宮崎市下北古墳調査報告」（以下「下北古墳調査報告」と記する）として報告されている。

II 遺跡の環境

下北方古墳群は、宮崎市の北西の高台「平和台公園」の広がる下北方台地に分布する。昭和14年4月21日に前方後円墳4基、円墳12基の16基の古墳が県指定史跡となっている。その後、11号前方後円墳の前方部と10・12号円墳が消滅したが、地下式横穴墓9基が確認されている。古墳の分布は、平和台公園西側の標高70mの丘陵（越ヶ迫地区）上に前方後円墳1基（13号）と円墳1基（14号）、丘陵の南側縁辺部に円墳2基（15・16号）が分布する。さらに400～500m南の塚原地区に前方後円墳3基（1・3・11号）と円墳9基（3～10・12号）が分布する。地下式横穴墓は7～9号円墳の墳丘下及びその周辺に9基が分布する。特に、9号円墳の墳丘下に掘り込んで造営された5号地下式横穴墓⁽¹⁾からは、横矧板鋌留短甲、三角板鋌留短甲、頸甲、眉庇付冑、鉄剣、直刀、鉄銚、鉄鏃、変形獣形鏡、変形紋鏡、勾玉、管



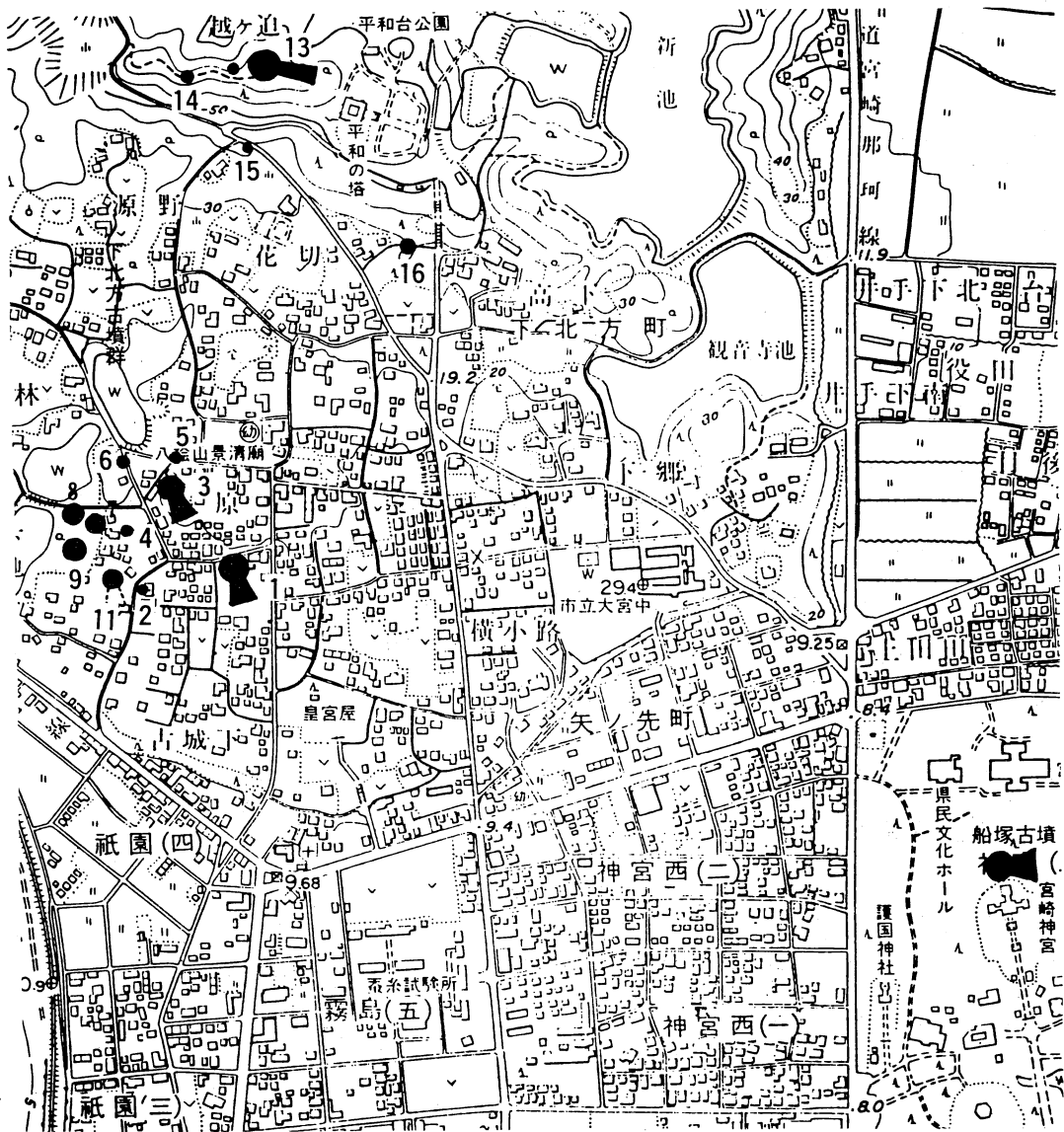
1. 下北方古墳群
2. 下北方地下式横穴墓群
3. 船塚古墳
4. 船塚遺跡
5. 池内横穴墓群
6. 瓜生野横穴墓群
7. 蓮ヶ池横穴墓群
8. 住吉横穴墓群
9. 生目古墳群
10. 生目横穴墓群
11. 大淀古墳群
12. 権現昔遺跡
13. 多宝寺遺跡
14. 竹ノ下遺跡
15. 浄土江遺跡
16. 宮大茶園遺跡
17. 宮大農園遺跡
18. 大宮中学校遺跡
19. 櫛遺跡
20. 引土遺跡
21. 庵ノ山遺跡
22. 櫛小学校遺跡
23. 曾師遺跡
24. 柏田貝塚
25. 跡江貝塚

第1図 遺跡分布図

玉、変形半円玉、金製垂飾付耳飾、鞍金具、鏡、杏葉、轡鏡板、三環鈴、馬鐸、手斧状鉄器、カギ状鉄器、鎌など地下式横穴墓としては際立った副葬品が確認された。

(2)
台地の下の沖積平野部には船塚古墳が所在する。主軸長76.8m、後円部径38m、前方部幅47mの周濠を巡らす新しい前方後円墳である。

一方、周辺の丘陵地には横穴墓の分布が見られる。下北方台地の北側東斜面には池内横穴墓群、西側丘陵には瓜生野横穴墓群がそれぞれ分布する。さらに、東側の芳士から住吉にか



第2図 下北方古墳群古墳分布図 (1 / 10,000)

「船塚遺跡」(1987) より転写

けての丘陵部に蓮ヶ池横穴墓群や住吉横穴墓群などが広く分布している。⁽⁸⁾

下北方古墳群の対岸にあたる大淀川右岸には、生目古墳群や大淀古墳群^{(3),(5)}が分布する。生目古墳群は4世紀後半から6世紀後半に造営された古墳群で、主軸長143mを測る3号墳をはじめ100m級の前方後円墳3基を含む前方後円墳8基、円墳22基、横穴墓9基から成る。大淀古墳群は前方後円墳3基、円墳3基、横穴墓1基から成る。3号前方後円墳は幅9mの周溝を持つ100m級の4世紀末の前方後円墳である。

一方、古墳時代の集落については、大淀川左岸の浄土江遺跡⁽⁴⁾では標高6mの微高地に竪穴住居跡25軒からなる5世紀後半から7世紀にかけての集落が形成されている。対岸の大淀川右岸では、大淀古墳群の周辺の多宝寺遺跡⁽⁵⁾や竹ノ下遺跡⁽⁶⁾では古墳時代後半(6世紀後半)の、さらに南に位置する源藤遺跡⁽⁷⁾では6世紀代の集落が確認されている。

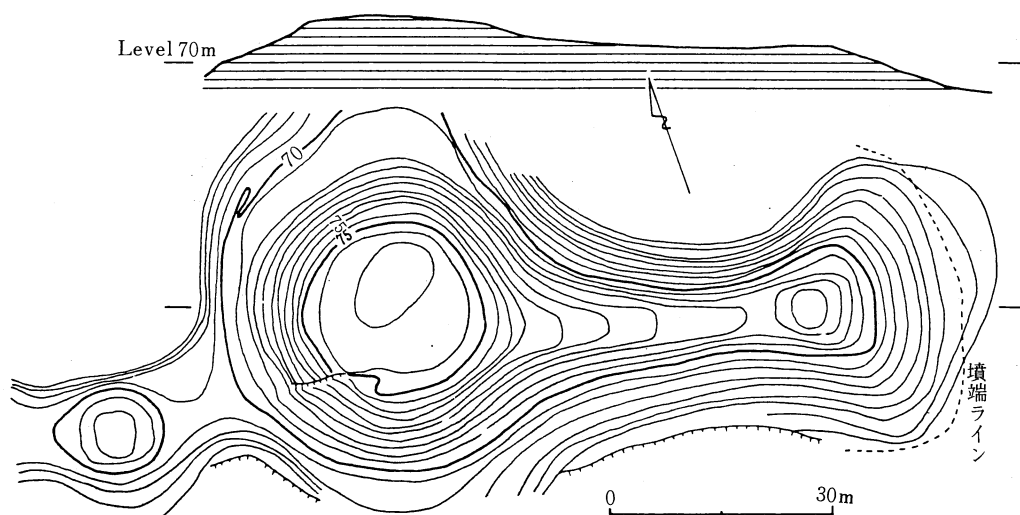
註

- (1) 「下北方地下式横穴第5号」『宮崎市文化財調査報告書第3集』宮崎市教育委員会(1977)
- (2) 面高哲郎「船塚古墳について」『宮崎考古第5集』宮崎考古学会(1979)
- (3) 「西ノ原遺跡—大淀1号古墳」『一般国道10号宮崎西バイパス事業に伴う発掘調査報告書』宮崎県教育委員会(1988)
- (4) 「浄土江遺跡」『宮崎市文化財調査報告書第6集』宮崎市教育委員会(1981)
- (5) 「街路生目通線改良工事に伴う発掘調査略報—大淀3号古墳・多宝寺遺跡・権現昔遺跡」『宮崎県文化財調査報告書第31集』宮崎県教育委員会(1988)
- (6) 「竹ノ下遺跡現地説明会資料」宮崎県教育委員会(1988)
- (7) 「源藤遺跡」『宮崎市文化財調査報告書』宮崎市教育委員会(1987)
- (8) 「蓮ヶ池横穴群調査報告書」宮崎県教育委員会(1971)

Ⅲ 調査の結果

調査の結果について「下北古墳調査報告」では次のように述べている。

「第1号墳」(以下「1号」と記す)は前方後円墳で、前方部が2段築成、後円部が3段築成で葺石を持ち、主軸長110m、後円部径40m、前方部幅30mの形態的には古式の古墳と考えられた。埴輪の樹立が検出され、円筒埴輪のほかに形象埴輪の一部も出土した。形象埴



第3図 1号墳（13号前方後円墳）と2号墳（円墳）測量図（1 / 1,000）

「船塚遺跡」(1987)より転写

輪には人物、動物、器材などが認められた。具体的には人物の腕部、馬の脚部、動物の額部、短甲片か蓋か家の一部と見られるものなどである。

「第2号墳」(以下「2号」と記す)は「1号」の西に隣接する円墳で、直径10~15mで高さ1.7mの小型のものである。形象埴輪片が出土している。

「第3号墳」(以下「3号」と記す)は円墳で、埴輪は確認されなかった。しかし、東西3m、南北1mに敷きつめられた礫が確認され、「礫郭」と判断された。

なお、指定古墳番号と対比すると、「1号」は県指定13号前方後円墳、「3号」は県指定16号円墳にあたる。しかし、「2号」は13号前方後円墳に隣接する14号円墳とは距離を異にすることから未指定の円墳と判断される。

IV 出土遺物

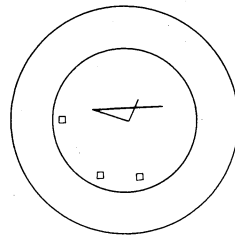
1. 出土状況

埴輪出土状況について「下北古墳調査報告」では次のように解説している。

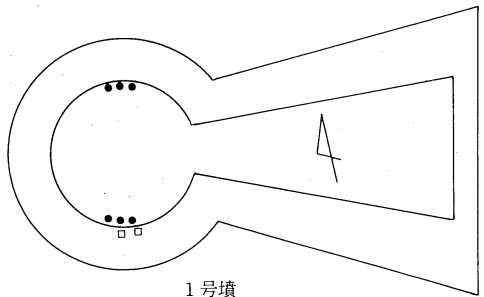
「1号」では、「埴輪円筒は後円部の頂上に於いては中心部をめぐって直径一八米の円を描いて樹てられている……。第一トレンチの南端から第三トレンチの南端にかけて一列の埴

輪円筒が弧線状に並び立っている。……。これらの埴輪円筒はいずれも基底部であって……。第二段の所では第一段の基底部に破片が多く見いだされたから、この部分に埴輪円筒が立てられたものと思われる。象形埴輪は、人物の手が第一トレンチの南端で二個、第二トレンチと第三トレンチの分岐点で一個見いだされたが……。破片が散乱していたものと認めねばならない。動物の足と思われるものは南側第一トレンチの延長線上の第一段の基底部に三本、その東方約一米を隔てた所に更に三本が南方に倒れた状態で存在した。……。いずれも同一個体の一部であることが知られる。……。…しかもこの象形埴輪は前脚と後脚との間隔を五〇糎とする動物の形であったことが知られる。」となっている。

「2号」では「通路の北側及び中心部の西方においては通路の南北両側より多くの破片を発掘したことは注目すべきことで、埴輪は埴輪円筒の破片と象形埴輪の破片とがあり、特に象形埴輪には……。文様の描かれているものが多く、……。人か動物かの手部、つもの形のもの、家形埴輪に見える文様、鎧か馬具の文様と思われるものなどである。更に中心より東方二・六米の所に岩盤に立っている埴輪の破片があった。……。なおこの岩盤に立っていた埴輪の底部には朱が見いだされた。」となっている。



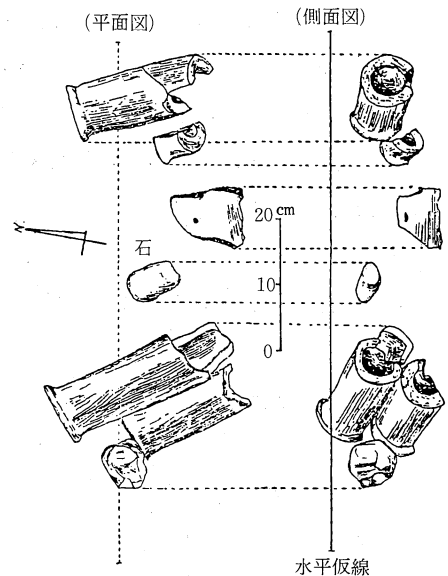
2号墳



1号墳

第4図 埴輪配列概念図

北郷泰道氏作図をトレース



第5図 埴輪出土状況実測図

「宮崎市下北古墳調査報告」より転写

2. 遺物

(1) 円筒埴輪

円筒埴輪は「1号」、「2号」で出土しており、埴質と須恵質の2種類が見られる。底部から口縁部まで復元できたのは1点(1)のみで、口縁部、胴部、底部の各器部で復元ができたものも図上復元もふくめて口縁部3点、胴部3点、基底部11点のみである。残りは破片である。

a. 形態 唯一形態の分かる1は口縁部と底部の端部がわずかに外反しているが楕円形の偏平なほぼ円柱状を呈している。また、多くの資料を部位ごとにみると、口縁部と底部でそれぞれ、次のように大別できる。

口縁部 直立気味に外傾する。(1~12, 19, 21~25)

直立気味に外傾し、端部を薄く成形する。(20)

直立気味に外反する。(26)

最上段のタガの直上に外反する短い口縁が続く。(13~18)

朝顔状に大きく外反する。(79, 80)

底部 真っすぐに基底部に続く。(63, 64, 65, 67, 68, 79)

第1タガから底部に向かって内湾気味に続く。(76)

基底部内面の端部をつよい指押さえで成形する。(61, 68, 69, 73)

基底部の内面をナデで薄く成形する。(60, 62, 66)

基底部の端部が肥厚する。(59)

b. 法量 1は器高69.5cm、口縁部径が35cm~30cmと楕円形に偏平している。

1の数値と復元できた埴輪を中心としたその他の法量の計測値をまとめると、口縁部、胴部、底部の器径は次の値を示す。

口縁部径 30cmクラス(1, 19)。25cmクラス(2)。15cmクラス(18)。

胴部径 22~25cmクラス(27, 28, 49)。

基底部径 20~25cmクラス(59~61, 63, 64, 76)。18cmクラス(77)。

上記の数値からは器径が30cmクラスの大型、20cmクラスの中型、10cmクラスの小型に分かれるが中型の埴輪が大半を占める。小型の埴輪には須恵質の特殊小型円筒埴輪が見られる。

タガの間隔に関する数値は、1の埴輪での計測では、基底部と第1タガの間が約16cm、第1タガと第2タガの間隔が約13cm、第3タガと第4タガとの間隔が約14cm、第4タガと口縁部の間隔が約13cmを測る。その他の計測可能は資料から見ると、口縁部と最上段のタガとの

間隔は12cm前後（1）、8cm前後（19. 24）、4cm前後（14）、1～2cm（13. 15～17）に分かれる。

また、中間部（胴部）でのタガの間隔はほとんど10～12cmを測る。さらに、基底部から第1タガまでの間隔は、17cm前後（63. 65. 58.）、12cm前後（1. 59～61. 64. 66. 76. 77）、に分かれる。

c. 調整 外面調整は全体をナデで調整したあと斜めハケを施している。須恵質の埴輪の基底部を中心にハケ調整後にタタキ技法を施すものも見られる。

内面調整はナデによる調整が主で口縁部に横ハケや斜めハケが見られる。それぞれ部位ごとの調整をみると次のように大別できる。

口縁部 外面は右方向の斜めハケ、内面端部から横ハケを施す（1～4. 6. 8. 9. 24. 25）

外面は右方向の斜めハケ、内面はナデを施す（5. 7. 10～23）

胴部 外面は右方向の斜めハケ、内面は横ハケを施す（50）

外面は右方向の斜めハケ、内面はナデを施す（13. 29. 31～35. 37. 39～41. 45. 47～52. 54～57）

外面は右方向の斜めハケのちナデを施す（17. 18. 27. 30. 59. 60. 65）

タガの下位に右方向のタタキがみられる（38. 58. 61～64. 66. 67. 76～78）

底部 外面は右方向の斜めハケ、基底部を左方向のタタキ調整後ナデ調整を施す。（64. 66. 76. 77）

外面は右方向の斜めハケを施し、基底部を左方向のタタキで調整している。（62. 63）

外面は右方向の斜めハケを施し、基底部をナデ調整している。（60. 61. 65. 67. 68. 70～75. 78）

e. タガ タガは第1次調整後貼りつけられるが、器壁から離脱しているものも見られる。

タガは指ナデで仕上げられており、器壁の内面にはナデ調整のあとに指おさえの跡が見られる。タガの断面の形状からみると、次のように大別できる。

中央がやや凹む台形（13. 18. 35. 36. 38. 41）

なだらかな山形（14. 34. 40. 49. 51. 56. 63）

台形（1. 15～17. 19. 24. 28. 29. 31. 39. 42～48. 50. 52. 54. 55. 58～61. 64～66. 76. 77）

偏平な台形（27. 30. 37）

f. 透孔 透孔のあるものは5点を数える。いずれも円孔である。1は第5段までを有する

が第2段と第4段に2孔づつはすに穿たれている。第2段の透孔は5.5cmを測る。59に第1タガ上部(第2段部)2.5cmの位置に2孔(推定径約5cm)が確認できるほか、第1タガ下位に接して5個の小孔が認められるが全体では2個が単位となり3方向に総計6個の小孔が穿たれているものと推定される。63にも第2段に透孔が確認される。

g. ヘラ記号 簡単な記号的なものが2点(25. 57)見られる。25は口縁部で、一部しか確認できないが弧状の記号が口縁端部下4~6cmに見られる。57は胴部で、内面に3本の平行線(長さ2cm・幅1cm)のヘラ記号が2ヶ所にある。

h. 胎土 肉眼による胎土の観察によると、埴質の埴輪では石砂粒は少ないが全体的に砂質をおびる。また、須恵質の埴輪では石英、長石の砂粒のほか白色の粗い砂粒を含む。

i. 焼成 焼成は全体的に良好である。黒斑のみられるものはない。

j. 色調 須恵質の埴輪の色調は概して黄橙~灰黄褐色、埴質の埴輪の色調は概して橙色を呈している。

k. 赤色顔料 円筒埴輪では赤色顔料が塗布されているものは確認されていない。

(2) 形象埴輪

形象埴輪は「1号」「2号」から出土している。そのうち「1号」から出土した2個体分の動物の脚部についてのみ出土地点が明確である。その他の形象埴輪は公園造成時に何等かの形で原状を失ったと思われる。

a. 人物埴輪

手(85. 86. 87) いずれも手首から先の部分で装飾はない。85は右手首で親指が残るだけで他の指は欠損している。86は右手首で親指~中指までが残存し薬指と小指は先端を欠く。親指と人差し指で円を形作っている。87は左手首でほとんどの指が欠損している。

腕(81. 82) 81は幅1cmの突帯が外面上部に貼付されている。82はかなり細身の腕部で、二本の沈線が施されている。

腰飾り(83) 人物埴輪の着物の裾の部分にあたる。幅1cm、厚み0.5cmの滴状の突帯とその下に2本の沈線で装飾が施されている。人物埴輪の腰部の装飾と思われる。

脇(84) 胴部と腕部の付け根にあたり、脇の部分と思われる。2本の沈線が縦に施されており、朱も一部に見られる。

b. 動物埴輪

脚(88~96) 88~95は径7~8cmの脚部で、高さは最大のもので28cmを測る。外面はタテ

ハケ調整が総てのものに施されており同一の個体が2個体分考えられる。96は高さ6.5cm、径4cmの小型の脚部である。色調も他の動物埴輪と比べると白っぽい。

額 (98. 99. 100) 99と100は犬か猪の額部片と思われる。99は眼部と思われる穿孔が2箇所に見られ、その間隔は約7cmを測る。100には1箇所穿孔途中の約1.2cmの穴が穿れている。いずれもタテハケが外面に施されている。

c. 器材埴輪

蓋 (103. 104) 103は埴質、104は須恵質である。いずれも外側に2本の円形沈線文とそこから中心部に向かってやはり2本の鋸歯文を組み合わせ実施している。

楯 (105) 端部に2本の平行沈線と弧状の2本沈線が施されている。

舟 (101. 102) いずれも側面の破片である。101は舟首の部分で舟底部より下部にあたる。舟底部がわずかに残り、舟底を支える支材が内側につけてある。側板には2本の沈線で端部に沿って弧状の文様とその内側に鋸歯文が施されている。102は反対側の舟尾部にあたる。文様は見られないが、やはり内側に支材が貼付されている。この2点については舟形埴輪の一部と断言できるだけの確実な資料とは言いがたい。しかし、その他の器材埴輪には該当する部首がなく舟と考えるのが妥当である。

d. その他 (106~110) 109と110は三角形の形状を呈しており、2辺の生きた面を持つ。2本の平行沈線や鋸歯文が施されている。楯か短甲あるいは蓋形が考えられるが、ここでは不明器種としてあげておく。

V まとめ

昭和26年に行われた下北方古墳の発掘調査では、昭和27年に『日向遺跡調査報告第1輯』「宮崎市下北方古墳調査報告」として報告がなされている。しかし、遺物(埴輪)については詳細な報告が成されておらず、その後も遺物の整理が滞っていた。今回のこの報告は、未整理だった下北方古墳調査の出土埴輪の報告を補う形でまとめたものである。

前章で述べたように、下北方古墳「1号」「2号」から出土した円筒埴輪の特徴としては須恵質と埴質の両タイプが見られる。埴質の埴輪にも黒斑はみられない。器径20cmクラスの円柱状のものが大勢をしめる。外面に二次調整を施しているものは見られず、斜め気味のタテハケの調整が見られる。また、基底部外面を中心にタタキ技法が見られる。内面はナデを主体とし調整がみられ、口縁部に横ハケを施すものも見られる。透孔は円形のみで、タガは

断面台形のものも見られるが突出度が低く断面が不整形なものも見られる。底部調整で指押えの跡が見られる。また、朝顔形埴輪の口縁部や、形象埴輪では人物、動物、楯、舟、蓋など比較的器種もそろっていた。特に今回の資料では、県内では出土例のほとんどない人物や動物が含まれていた点や、西都原古墳以来の出土例である舟と思われる資料などかなりの成果を得た。

県内の埴輪の出土例⁽⁴⁾としては、今回の下北方古墳をはじめ、西都原古墳（西都市）、新田原古墳（新富町）、持田古墳（高鍋町）、松本塚（西都市）等がある。

形象埴輪は発掘例として大正年間の発掘調査で出土した西都原 169号墳の子持家形・舟形・衝角付冑形・眉庇付冑形埴輪、170号墳の家形埴輪、171号墳の家形・短甲形埴輪などに代表される。169号・170号墳は男狭穂塚に隣接する径45mの円墳、171号墳は女狭穂塚に隣接する一辺23mの方墳である。また、表採品としては女狭穂塚（全長174mの前方後円墳）出土の草摺形・盾形・冑形・短甲形埴輪、持田亀塚古墳（全長50mの帆立貝式古墳）の家形埴輪、新田原古墳・本庄古墳群の蓋形埴輪、新田原古墳群出土の猪形埴輪なども見られるが、その出土例は少ない。

円筒埴輪の調査例として下北方「1号」⁽²⁾「2号」⁽³⁾や松本塚とその周辺の三納20・21・24・25号、表採品として西都原女狭穂塚⁽¹⁾、持田34号⁽⁵⁾、新田原58・59号⁽⁵⁾から出土している。松本塚は全長97mの前方後円墳、三納20・21・24・25号墳は松本塚に隣接する古墳で20号が全長30m程の帆立貝式古墳、21・24・25号が径20m前後の円墳である。

現段階では川西編年の第Ⅰ期から第Ⅱ期にかけての4世紀代と思われる古手の円筒埴輪は確認されていない。

県内出土の円筒埴輪の特徴としては出土例では、女狭穂塚出土の一群には外面調整が横ハケで、タガ断面もしっかりとした台形のもので大勢を占め川西編年の第Ⅲ期にあたる。持田34号出土の埴輪は、外面に横ハケの調整が見られ、台形タガが崩れ退化を示すことから川西編年の第Ⅳ期にあたる。

一方、松本塚や三納古墳では埴質と須恵質が混在し、外面タテハケ調整のもので大勢を占め、川西編年第Ⅴ期に当たるが、三納24号の須恵質の朝顔形埴輪はタテハケ調整後にヨコハケ調整を施しており、第Ⅳ期にさかのぼると思われる。

下北方古墳出土の埴輪は出土地点が明確でないうえ「1号」「2号」の区分もよくわからない。しかし、全体的に時期や製作上の差違は認められず、同時期の埴輪と考えられるため本報告では一括資料としてあつかった。「1号」は丘陵上に構築された前方後円墳で、古手の

古墳の様相をもつが、出土した円筒埴輪の特徴から川西埴輪編年の第Ⅴ期にあたると思われる。また、形象埴輪においても人物がみられる点があげられる。しかし、舟や猪?など埴輪がみられることから、第Ⅴ期でも古手の様相をもつと思われる。

本報告書を作成するにあたり、北郷泰道、石川悦雄、長津宗重の各氏には御指導御協力をいただいた。記して感謝申し上げます。

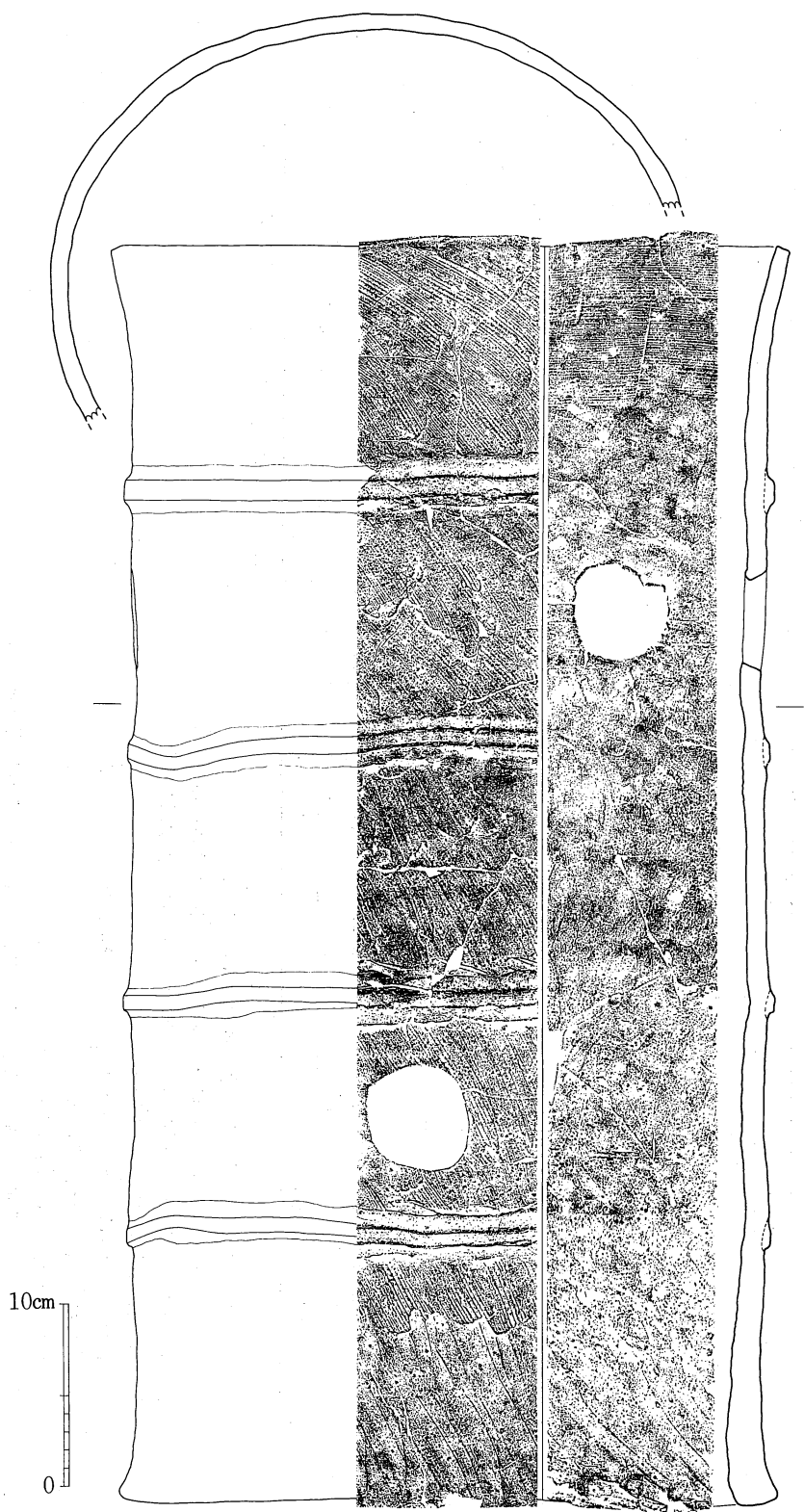
- (1) 福尾正彦「女狭穂塚陵墓参考地出土の埴輪」『書陵部紀要第36号』宮内庁書陵部 1985
- (2) 「松本遺跡」『昭和61年度農業基盤整備事業に伴う遺跡調査概報』1987宮崎県教育委員会
- (3) 「松本遺跡—三納地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告」『西都市埋蔵文化財発掘調査報告第3集』1987 西都市教育委員会
- (4) 「形象埴輪の出土状況」『第17回埋蔵文化財研究会資料』1985 埋蔵文化財研究会
- (5) 谷口武範「持田古墳群からみたその社会」『えとのす32特集古代日向part 2』新日本教育図書 1987
- (6) 『西都原発掘75周年展図録』宮崎県総合博物館 1985
- (7) 川西宏幸「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第64巻第2号 1978

宮崎県埴輪出土地一覧表

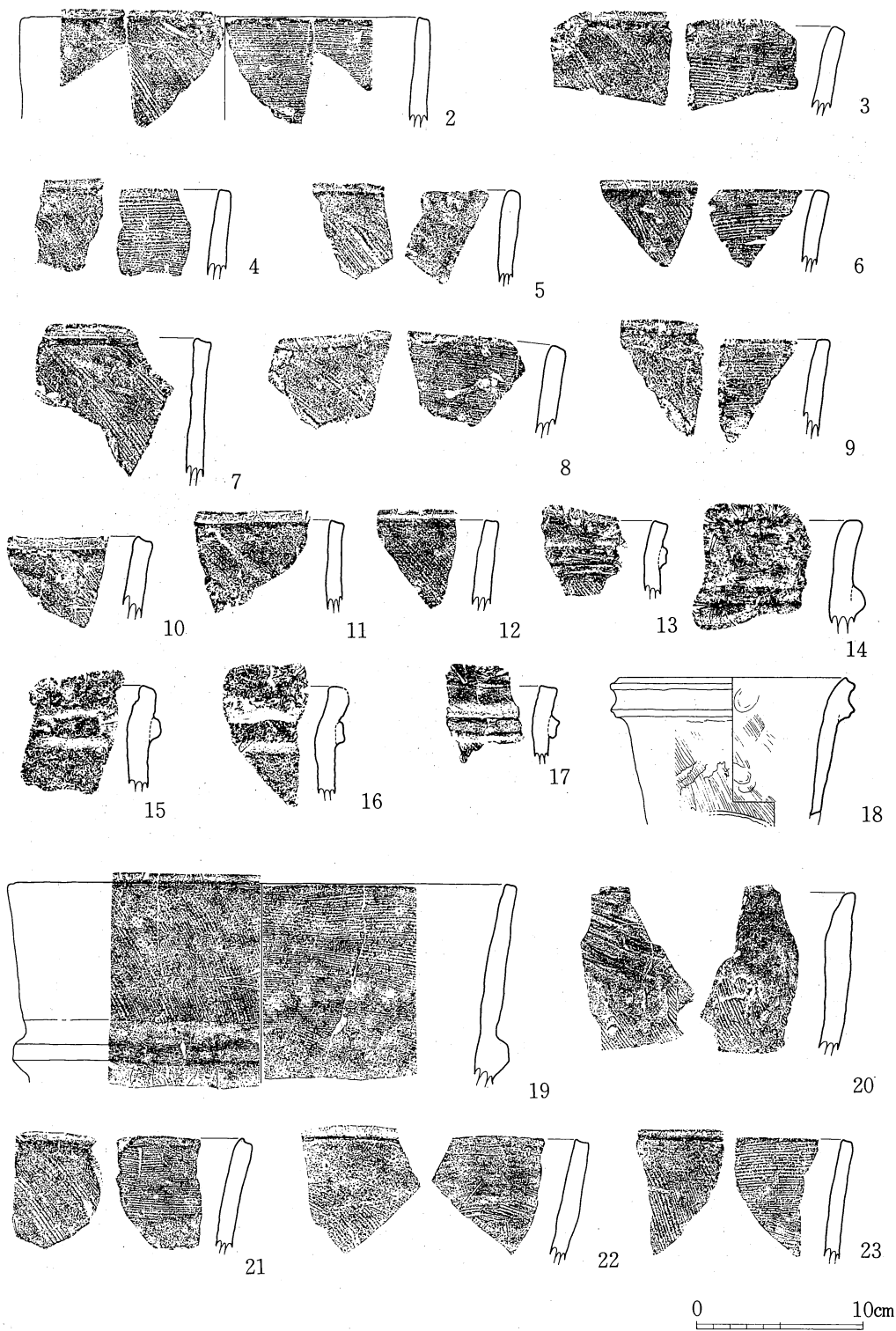
番号	遺跡名	所在地	時期	遺構概要	家	舟	蓋	盾	靴	兜	短甲	草摺	男	女	鳥	犬・猪	不明	その他	文献
1	西都原 169号墳	西都市大字三宅	中期	円墳	3	1				1	1							円筒	1
2	西都原 170号墳	〃	〃	〃	4													〃	2
3	西都原 171号墳	〃	〃	方墳	※ 3-4	1	※ 1	※ 1		1	1							〃	3
4	西都原 女狭穂塚	〃	後期	前方後円墳					○	○	○	○						〃	4
5	松本塚	〃 大字三納	〃	〃														〃・朝顔(須恵質を含む)	5
6	三納 20号墳	〃	〃	〃 (帆立貝式)														〃・朝顔(須恵質を含む)	6
7	三納 21号墳	〃	〃	円墳														円筒	6
8	三納 24号墳	〃	〃	〃														〃	6
9	三納 25号墳	〃	〃	〃														〃	6
10	下北方 1号墳	宮崎市下北方	中期	前方後円墳		2		1		1	1		2	1				〃・朝顔(須恵質を含む)	7
11	下北方 2号墳	〃	〃	円墳												1		〃	7
12	持田・亀塚古墳	高岡町	後期	前方後円墳(帆立貝式)	1														8
13	新田原 42号墳	新富町																	9
14		〃 新田														1	1		9-10
15		〃 祇園原						1											9
16		国富町本庄					1												9
17		宮崎市住吉																	9
18		西都市西都原周辺				1													9

(第17回埋蔵文化財研究会資料「形象埴輪の出土状況」を参考加筆)

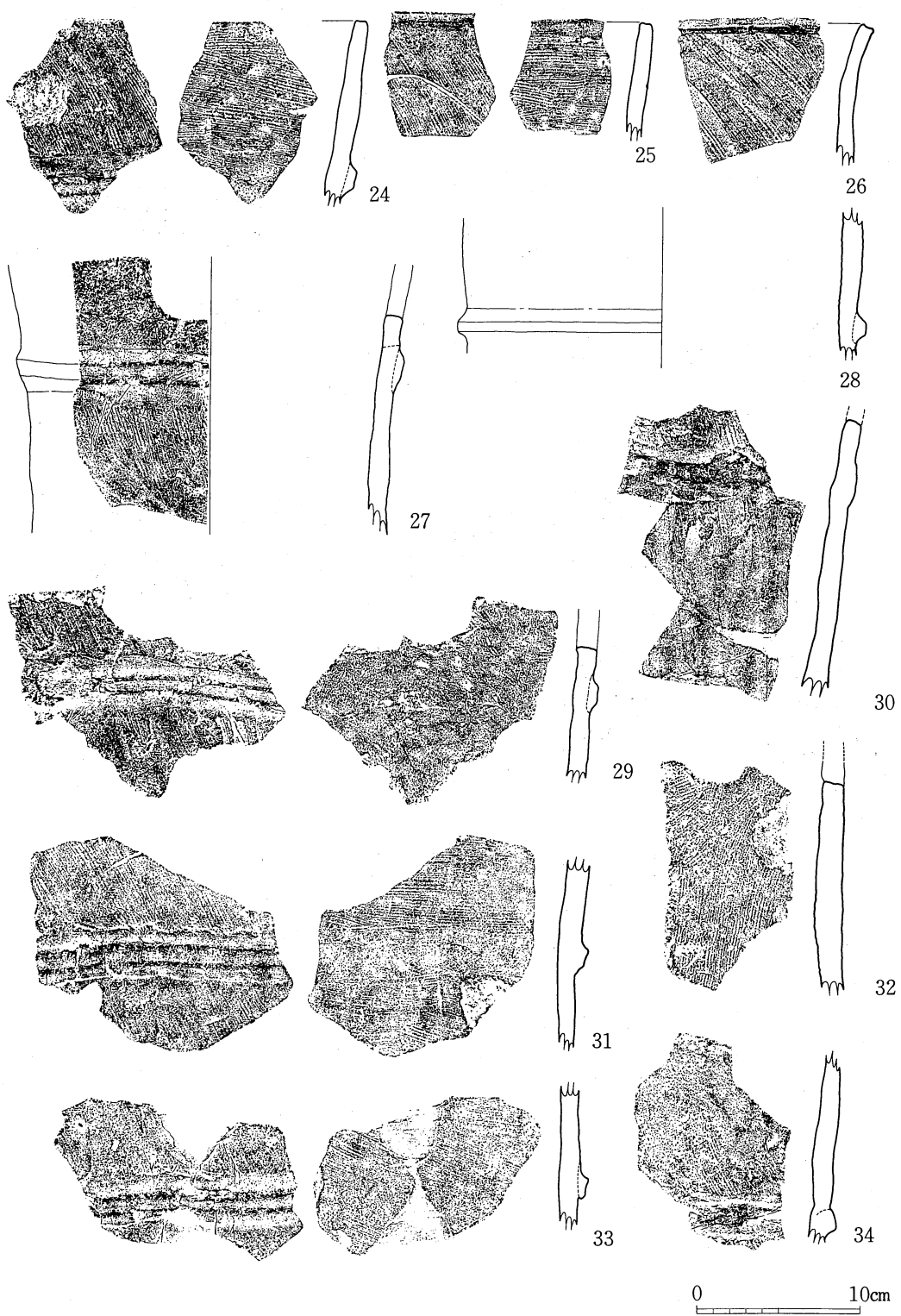
- 文献
1. 関 保之助 『宮崎県児湯郡西都原古墳調査報告』 1915
 2. 〃 『第百十一号塚』 『宮崎県児湯郡西都原古墳調査報告』 1915
 3. 浜田耕作・柴田常恵 『第二号塚』 『宮崎県児湯郡西都原古墳調査報告』 1915
※印は、現在京都大学において整理中。
 4. 福尾正彦 『女狭穂塚参考地出土の埴輪』 『書陵部紀要第36号』 1985
 5. 宮崎県教育委員会 『松本遺跡』 1987
 6. 西都市教育委員会 『松本遺跡』 1987
 7. 鏡山 猛・石川恒太郎他 『宮崎山下北方古墳調査報告』 『日向遺跡調査報告第1輯』 1952
 8. 梅原未治 『持田古墳群』 1969
 9. 宮崎県総合博物館 『宮崎県総合博物館収蔵資料目録』 1983
 10. 日本考古学選集3 『第八部 埴輪と勾玉・土器等一埴輪考』 『坪井正五郎集 下』 1972 (△印は文献10)



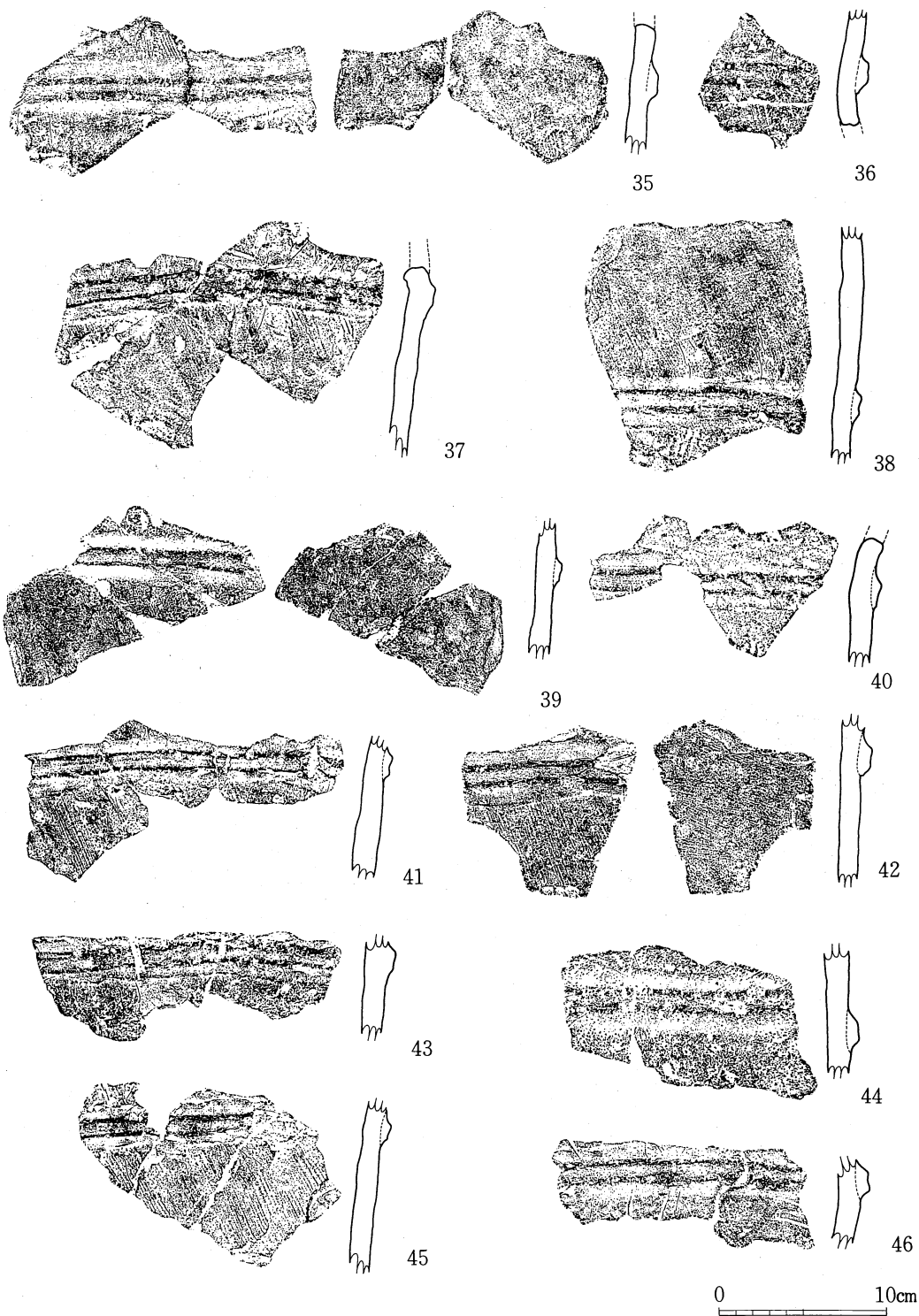
第7図 出土埴輪実測図(1)



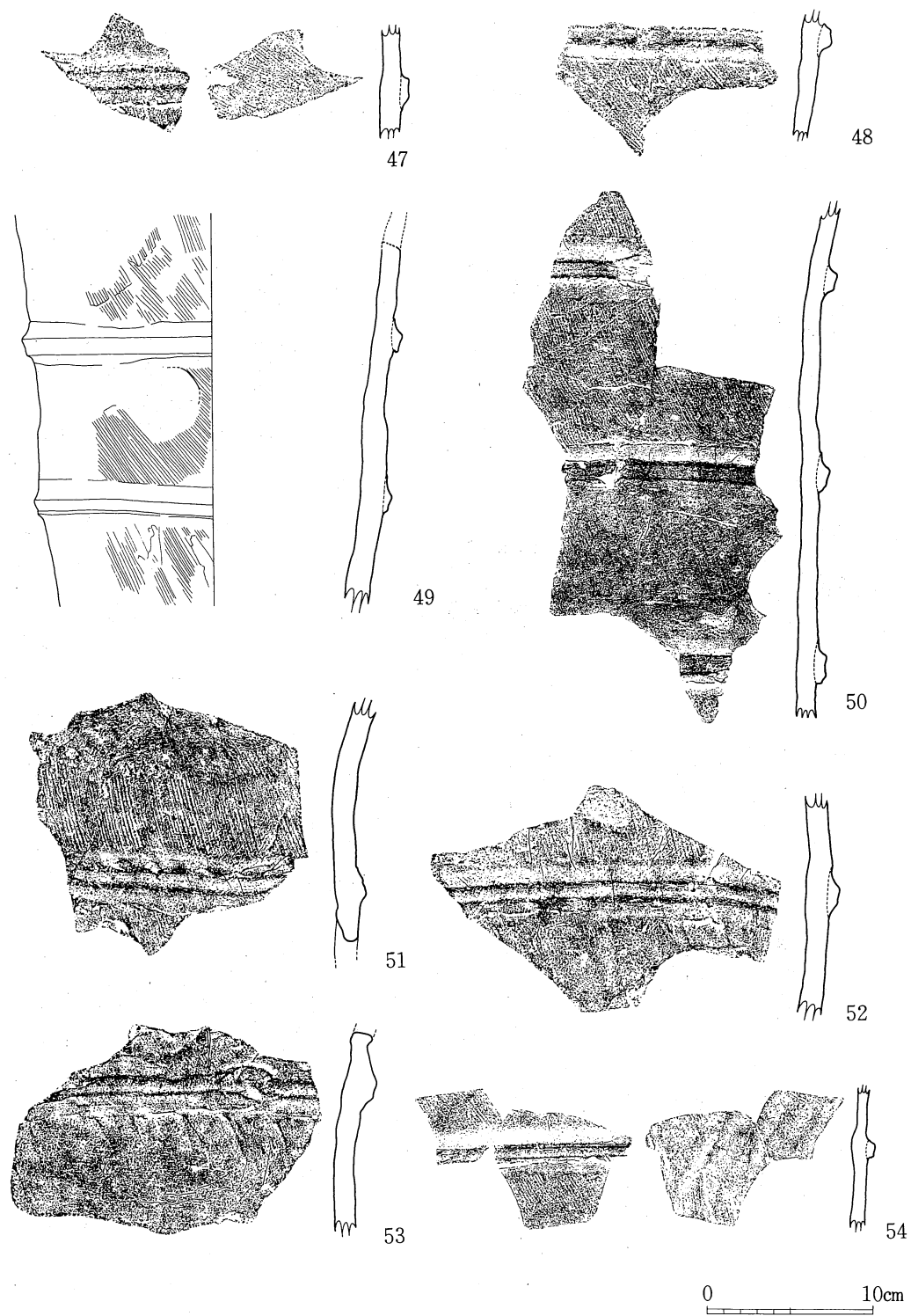
第8図 出土埴輪実測図(2)



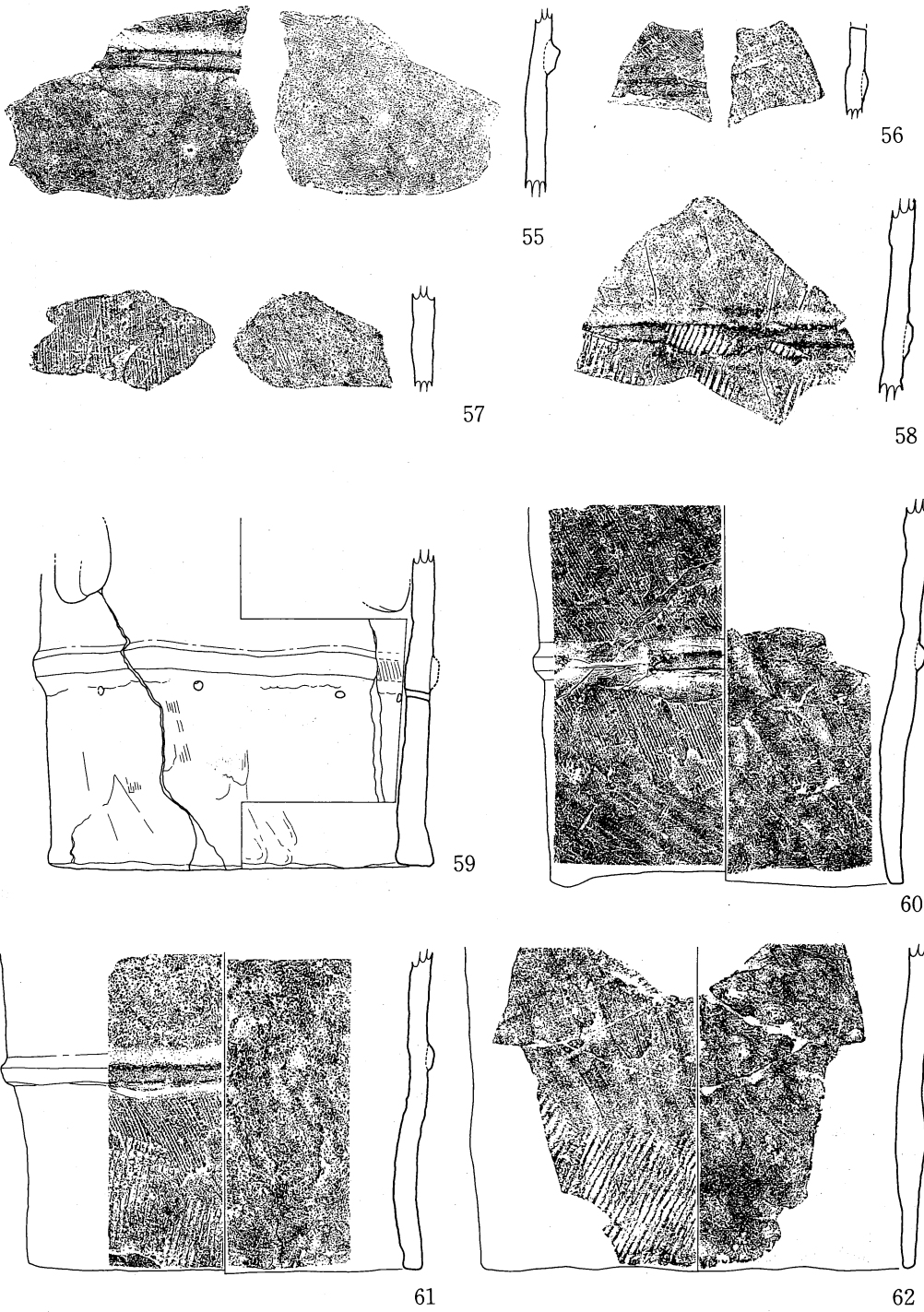
第9図 埴輪実測図(3)



第10图 出土埴輪実測図(4)

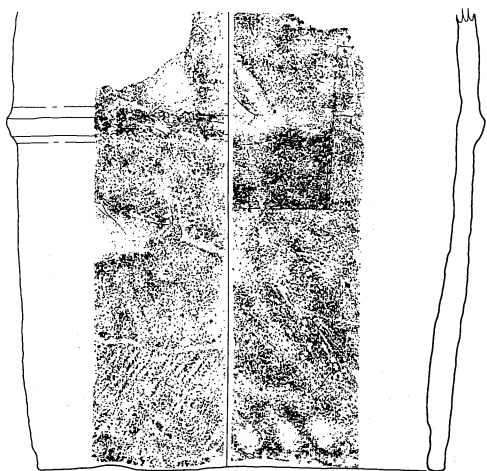


第11図 出土埴輪実測図(5)



0 10cm

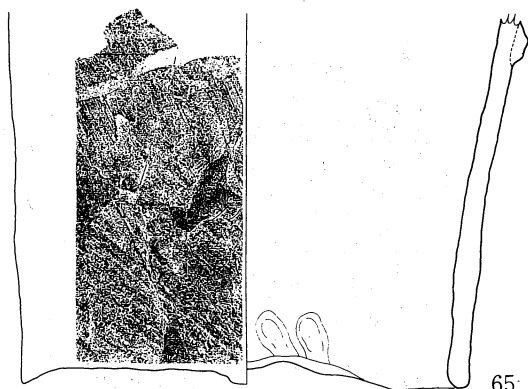
第12図 出土埴輪実測図(6)



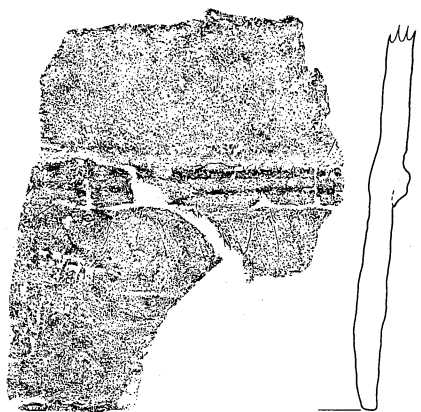
63



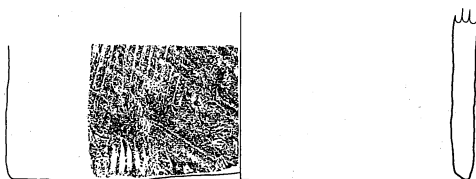
64



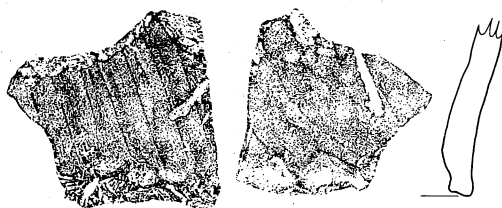
65



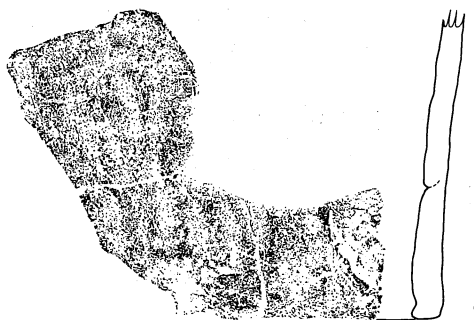
66



67



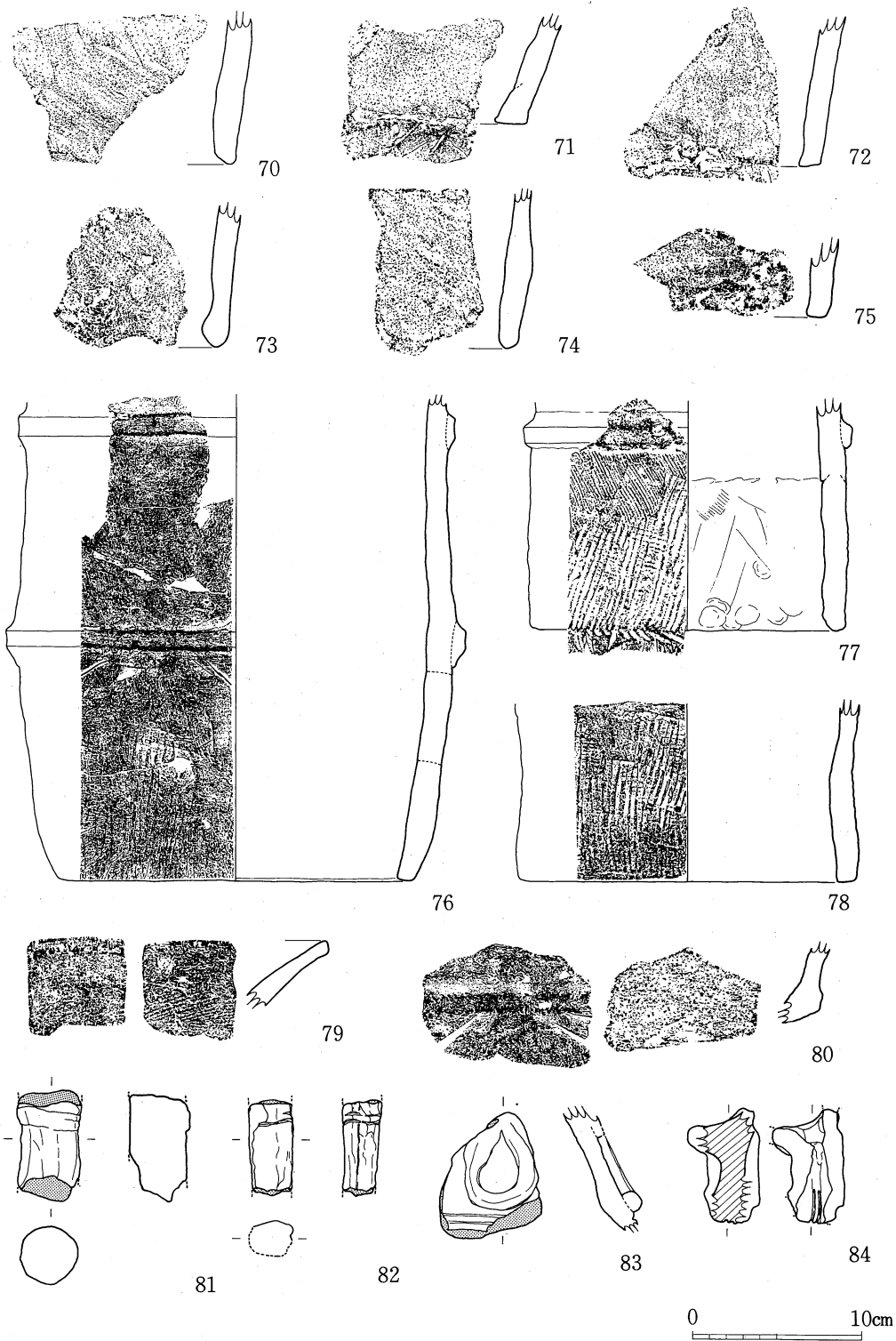
68



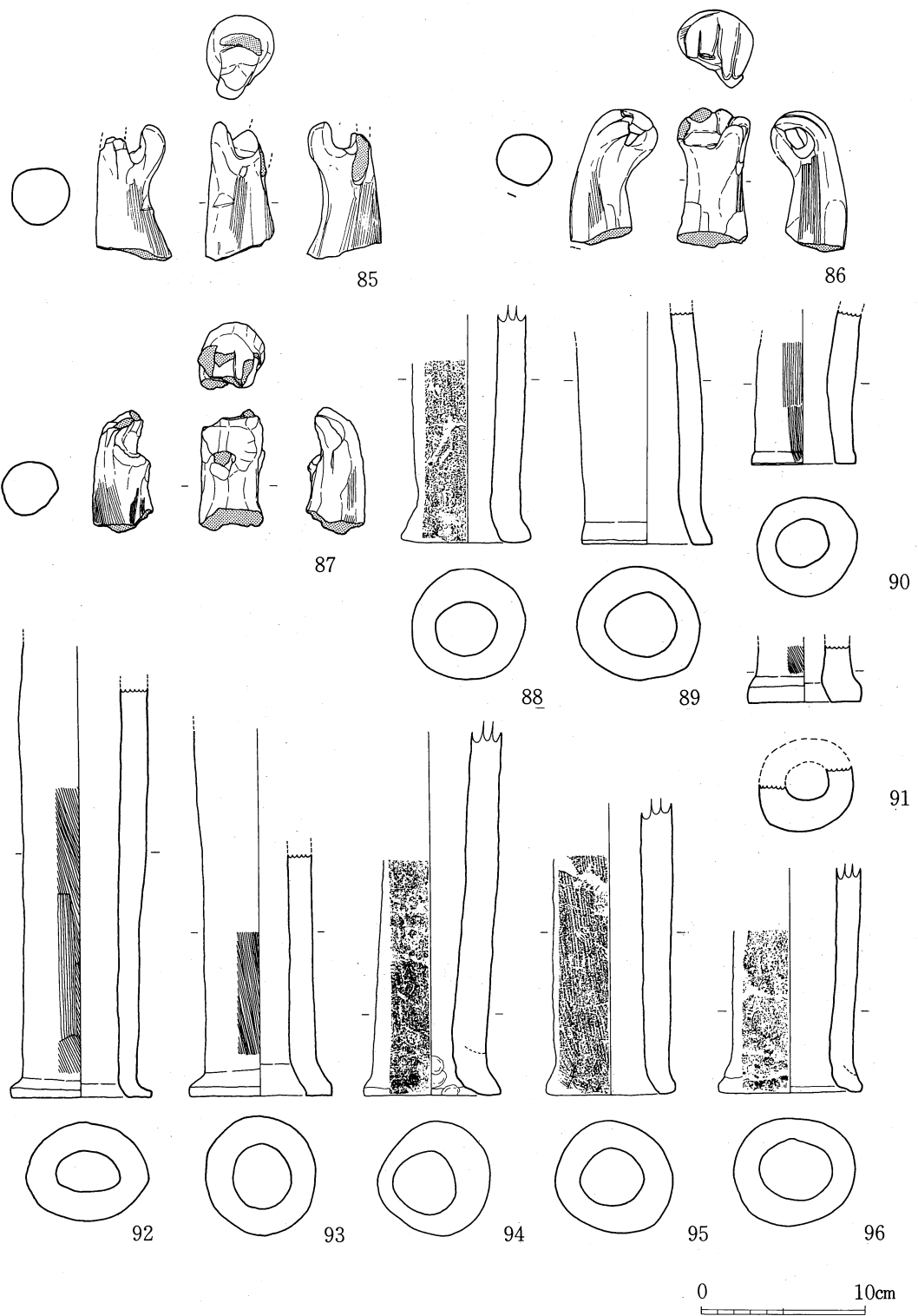
69

0 10cm

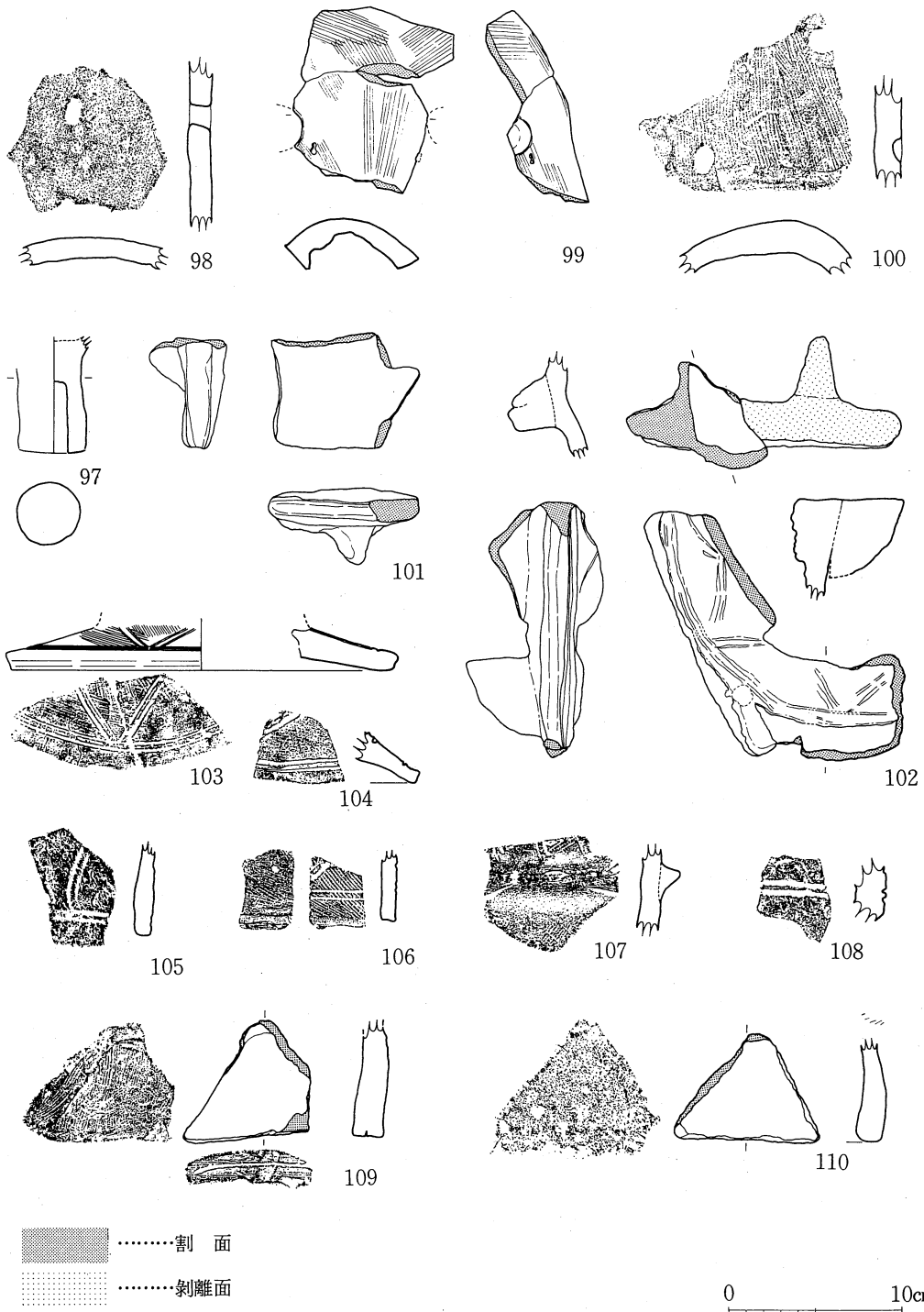
第12図 出土埴輪実測図(7)



第13图 出土埴輪実測図(8)



第14图 出土埴輪実測図(9)



第15图 出土埴輪実測图10

表2 出土土輪観察表 (円筒土輪1)

(登録番号)

①口径 ②器高 ③底径

番号	出地点	土点	残存部位	法量	形態の特徵		基法の円筒部		タガ	基底部	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調	備考
					口径	高さ	断面	底面				
第1図			口縁部 ～底部 全周の 約1/3	① 37.5 (復元径) ② 69.7 ③ 36.3	台形	4段目 2段目	端 (外) 斜めハケ (内) 横ハケ、斜めハケ	口縁部 横ナデ 部 (外) 斜めハケ、斜めハケ (内) 横ハケ、斜めハケ	横ナデ 指ナデ	指ナデ 指ナデ	④ 1～4mm大の灰白色で軟質の砂粒 1～2.5大の黒色、褐色、灰色の砂粒を含む ⑤良好 ⑥浅黄 (2.5Y 7/3) 内面口縁部付近 橙 (7.5YR 7/6)	タガ4条全5段 (890084)
第2図			口縁部	① 24.7 (復元径) ② 6.2			端 (外) 斜めハケ後ナデ (内) 横ハケ	横ナデ 部 (外) 斜めハケ (内) 横ハケ			④ 3mm以下の茶褐色の砂粒、4mm以下の灰色の砂粒と1mm以下ガラス状に光る粒子を多く含む ⑤良好 ⑥橙 (5YR 6/6)	(890030)
3			口縁部	② 4.9			端 (外) 斜めハケ (内) 横ハケ	横ナデ 部 (外) 斜めハケ (内) 横ハケ			④ 2mm以下の茶褐色、灰色の砂粒と、1mm以下の粒子を多く含む ⑤良好 ⑥橙 (5YR 6/6)	(890031)
4			口縁部	② 5.1			端 (外) 斜めハケ (内) 横ハケ	横ナデ 部 (外) 斜めハケ (内) 横ハケ			④ 2mm以下の茶褐色、灰色の砂粒と、1mm以下のガラス状に光る粒子を多く含む ⑤良好 ⑥橙 (5YR 7/6)	(890026)
5			口縁部	② 5.5			端 (外) 斜めハケ (内) 斜めナデ	横ナデ 部 (外) 斜めハケ (内) 斜めナデ			④ 1mm以下の茶褐色の砂粒、ガラス状に光る粒子、2mm以下の黒く光る砂粒を多く含む ⑤良好 ⑥橙 (5YR 6/6)	(890025)
6			口縁部	② 4.5			端 (外) 斜めハケ (内) 横ハケ	横ナデ 部 (外) 斜めハケ (内) 横ハケ			④ 2mm以下の灰色、褐色の砂粒を多く含む ⑤良好 ⑥橙 (5YR 7/6)	(890032)
7			口縁部	② 8.4			端 (外) 斜めハケ (内) 斜めナデ	横ナデ 部 (外) 斜めハケ (内) 斜めナデ			④ 5mm以下の茶褐色の砂粒とガラス状に光る1mm以下の粒子を多く含む。2mm以下の白色砂粒を少し含む。 ⑤良好 ⑥橙 (5YR 7/6)	(890029)
8			口縁部	② 5.25			端 (外) 斜めハケ (内) 横ハケ	横ナデ 部 (外) 斜めハケ (内) 横ハケ			④ 2mm以下の茶褐色、灰色の砂粒と1mm以下のガラス状に光る粒子を多く含む。 ⑤良好 ⑥橙 (5YR 6/6)	(890033)
9			口縁部	② 5.9			端 (外) 斜めハケ (内) 横ハケ	横ナデ 部 (外) 斜めハケ (内) 横ハケ			④ 2mm以下の茶褐色、灰色の砂粒と1mm以下のガラス状に光る粒子を多く含む。 ⑤良好 ⑥橙 (5YR 7/6)	(890035)
10			口縁部	② 4.9			端 (外) 斜めハケ (内) 横ナデ	横ナデ 部 (外) 斜めハケ (内) 横ナデ			④ 2mm以下の茶褐色、灰色、白色(粉っぽい)の砂粒を多く含む。1mm以下のガラス状に光る粒子を少し含む。 ⑤良好 ⑥橙 (5YR 7/6)	(890034)

(円筒植輪2)

(mm) ①口 ②器 高

番号	出土地	土点	残存部位	法量	形状の特徵 タガノ透し孔	技法の円筒部		特殊部	基部	タガ	④胎土	⑤焼成	⑥色調	備考
						口縁部	底							
第2図 11			口縁部	② 5.4		横ナデ 部 斜めハケ (内) 端部直下は横ナデ 以下、不明					④ 2mm以下の赤褐色砂粒と1mm以下の茶褐色砂粒を多く含む ⑤良 好 ⑥橙 (5YR 7/6)		(890028)	
12			口縁部	② 5		横ナデ 部 斜めハケ (外) 端部直下は横ナデ (内) 横ナデ 以下、風化により不明					④ 2mm以下の灰色の砂粒と1mm以下のガラス状に光る粒子を多く含む ⑤良 好 ⑥ (外) 橙 (5YR 6/6) (内) 橙 (5YR 7/6)		(890027)	
13			口縁部 タガ部	② 4.4	台中央がやや凹む	横ナデ 部 斜めハケ (外) 斜めハケ (内) 横ナデ			横ナデ		④ 2mm以下の灰色、茶褐色の砂粒を多く含む 1mm以下のガラス状に光る粒子を少し含む ⑤良 好 ⑥橙 (5YR 6/6)		(890023)	
14			口縁部 タガ部	② 6.1	なだらかな山形	横ナデ 部 斜めハケ (外) 斜めハケ (内) 横ナデ			横ナデ		④ 3mm以下の茶褐色、灰色、白色(粉っぽい)の砂粒を多く含む。1mm以下のガラス状に光る粒子と黒く光る粒子を少し含む。9mmの茶褐色の砂粒も含む。(7.5YR 7/8) ⑤良 好 ⑥黄橙 (7.5YR 7/8)		(890024)	
15			口縁部 タガ部	② 6	台形	横ナデ 部 斜めハケ (外) 横ナデ (内) 横ナデ			横ナデ		④ 0.5~2mm大の褐色、黒色、白色の砂粒を含む。黒色で輝きのある砂粒、石英などを含む。軟質 ⑤良 好 ⑥黄橙 (10YR 8/4)		(890044)	
16			口縁部 タガ部	② 6.5	方形	横ナデ 部 斜めハケ (外) 横ナデ (内) 横ナデ			横ナデ		④ 0.5~2mmの褐色、黒色で光沢のある砂粒、石英などを含む。 ⑤やや軟質 ⑥黄橙 (10YR 8/4)		(890045)	
17			口縁部 タガ部	② 4.3	方形	横ナデ 部 斜めハケ (外) 横ナデ (内) 横ナデ			横ナデ		④ 0.3~0.8mm大の灰色、黒色の砂粒を含む ⑤良 好 ⑥橙 (7.5YR 7/6)		(890043)	
18			口縁部 胴部	① 14.8 (復元後) ② 8.9	台中央がやや凹む	横ナデ 部 斜めハケ (外) 斜めハケ (内) 斜めハケ 指押さえ			横ナデ		④ 3mm以下の灰色の砂粒と2mm以下の黒く光る砂粒を多く含む。 ⑤良 好 ⑥ (外) 淡黄橙 (10YR 8/3) (内) 黄橙 (10YR 8/4)		(890047)	
19			口縁部 タガ部	① 30.7 (復元後) ② 12.0	台形	横ナデ 部 斜めハケ (外) 斜めハケ (内) 斜めハケ 指押さえ			横ナデ		④ 3mm以下の灰色、白色の砂粒を多く含む。 ⑤良 好 ⑥ (外) 灰褐 (7.5YR 5/2) (内) 灰黄褐 (10YR 5/2)		復元タガ径30cm (890014)	
20			口縁部	② 9.5		横ナデ 部 斜めハケ (外) 斜めハケ (内) 斜めハケ			横ナデ		④ 2mm以下の茶褐色の砂粒と1mm以下のガラス状に光る粒子、黒色の光る粒子を少し含む。 ⑤良 好 ⑥ (外) 灰黄褐 (10YR 6/2) (内) 黄橙 (7.5YR 6/6)		(890040)	

(円筒植輪 3)

(cm) ②器高

番号	出地	出土点	残存部位	法量	形状	口径	口径	特殊部		技法	円筒部	底面	タガ	④胎土	⑤焼成	⑥色調	備考
								口縁部	端部								
第2図 21			口縁部	② 6.6	台形			口縁部 横ナデ・斜めハケ 部 (外) 横ナデ・横ハケ (内) 横ナデ・横ハケ 指押さえ						④ 3mm以下の灰色の砂粒を多く含む。3mm以下の白色の砂粒を少し含む。 ⑤良好 ⑥にぶい黄橙 (10YR 7/3)			(890042)
22			口縁部	② 7.3				口縁部 横ナデ・斜めハケ 部 (外) 横ナデ・横ハケ (内) 横ナデ・横ハケ 斜めハケ						④ 2mm以下の褐色、灰色の砂粒を少し含む。 ⑤良好 ⑥(外) にぶい黄橙 (10YR 7/3) (内) にぶい黄橙 (10YR 7/4)			(890039)
23			口縁部	② 7.2				口縁部 横ナデ・斜めハケ 部 (外) 横ナデ・斜めハケ (内) 横ナデ・斜めハケ						④ 3mm以下の灰色砂粒と1mm以下の粉っぽい白色砂粒を多く含む。1mm以下のガラス状に光る粒子を少し含む。 ⑤良好 ⑥灰黄褐 (10YR 6/2)			(890038)
24			口縁部 タガ部	② 11.2	台形			口縁部 横ナデ 部 (外) 斜めハケ (内) 横ナデ・斜めハケ ナデ				横ナデ		④ 4mm以下の灰色の砂粒、2mm以下の白色(粉っぽい)の砂粒を多く含む。 ⑤良好 ⑥(外) 橙 (7.5YR 7/3) (内) にぶい黄橙 (10YR 6/3)			(890016)
25			口縁部	② 7				口縁部 横ナデ 部 (外) 斜めハケ (内) 横ナデ・横ハケ						④ 3mm以下の灰色の砂粒を多く含む。ガラス状に光る微粒子を少し含む。 ⑤良好 ⑥灰黄褐 (10YR 6/2)			ヘラ記号有り (890041)
26			口縁部	② 8.5				口縁部 横ナデ 部 (外) 斜めハケ (内) 横ナデ・斜めナデ						④ 2mm以下の灰色、白色砂粒を多く含む。1mm以下のガラス状に光る粒子を少し含む。 ⑤良好 ⑥(外) 黄灰 (2.5Y 6/1) (内) 黄黄 (2.5Y 7/3)			(890037)
27			胴部	② 16.8	偏平な台形	タガ上 1.7cm	円形	胴部 斜めハケ 部 (外) 斜めハケ (内) 横ナデ 指押さえ				横ナデ		④ 0.5~2.5mm大の茶褐色、灰色、白色などの砂粒を含む。 ⑤良好 ⑥にぶい黄橙 (10YR 7/4) (内) 黄黄 (5YR 6/6)			タガ部径24cm (還元径) (890051)
28			胴部	② 8.9	台形			胴部 斜めハケ 部 (外) 斜めハケ (内) 横ナデ 指押さえ				横ナデ		④ 0.3~2.5mm大の灰色、褐色、白色、黒色などの砂粒を非常に多く含む。 ⑤良好 ⑥(外) 浅黄橙 (10YR 8/4) (内) 浅黄橙 (7.5YR 7/6)			タガ部径25.2cm (還元径) 酸化鉄粒含む (890052)
29			胴部	② 10.5	台形	タガ上 1.5cm	円形	胴部 斜めハケ 部 (外) 斜めハケ (内) 横ナデ 指押さえ				横ナデ		④ 0.5~2mm大の灰色、褐色の砂粒、石英などを含む。 ⑤良好 ⑥橙 (5YR 6/6)			(890056)
30			胴部	② 16.5	偏平	タガ上 2.5cm	円形	胴部 斜めハケ 部 (外) 斜めハケ (内) 横ナデ 斜めナデ 指押さえ				横ナデ		④ 2mm以下の茶褐色の砂粒を多く含む。1mm以下の黒色で光る粒子、ガラス状に光る粒子を少し含む。 ⑤良好 ⑥橙 (5YR 6/6)			(890061)

(円筒挿輪 4)

(mm) ②器高

番号	出地点	残存部位	法量	タガ	特徴	口縁部		技法の特徴		タガ	基底部	④胎土	⑤焼成	⑥色調	備考
						口	縁	外	内						
第3図 31		胴部	② 11.5	台形				(外) 斜めハケ (内) 横ハケ ナデ	横ナデ			④ 3mm以下の茶褐色、茶褐色の砂粒を多く含む 1mm以下の灰色で光る砂粒、ガラス状に光る ⑤良 好 ⑥橙 (5YR 7/6)		(890059)	
32		胴部	② 14	円形			(外) 斜めハケ (内) ナデ					④ 1mmから大きいものは8mm大程度の褐色 の砂粒と0.3~3mm大の灰色、白色、黒色 で輝きのある砂粒などを多く含む。 ⑤良 好 ⑥橙 (5YR 7/6)		(890079)	
33		胴部	② 8.5	変形			(外) 斜めハケ (内) 斜めハケ ナデ	横ナデ				④ 3mm以下の茶褐色、茶褐色の砂粒を多く含む 1mm以下のガラス状に光る粒子を少し含む ⑤良 好 ⑥橙 (5YR 7/6)		(890064)	
34		胴部	② 11.5	山形			(外) ナデ (内) 斜めナデ (かぶり摩耗)	横ナデ				④ 4mm以下の茶褐色、褐色、灰色の砂粒と1 mm以下の黒色で光る粒子、ガラス状に光る ⑤良 好 ⑥橙 (5YR 7/6)		(890072)	
第4図 35		胴部	② 7.5	台形 中央部 かやや 凹む	有り		(外) ハケ (内) ナデ ハケ	横ナデ				④ 2mm以下の茶褐色、灰色の砂粒を多く含む 1mm以下のガラス状に光る粒子を少し含む ⑤良 好 ⑥橙 (7.5YR 7/6)		(890075)	
36		胴部	② 6.9	台形 中央が 凹む	有り		(外) ナデ (内) 斜めナデ	横ナデ				④ 2mm以下の茶褐色、黒色の砂粒を多くと1 mm以下のガラス状に光る粒子を少し含む。 ⑤良 好 ⑥橙 (7.5YR 7/6)		(890077)	
37		胴部	② 11.5	台や偏 平	有り		(外) ナデ (内) 斜めナデ	横ナデ				④ 2mm以下の茶褐色の砂粒を多く含む。1mm 以下のガラス状に光る粒子を少し含む。 ⑤良 好 ⑥橙 (5YR 6/6)		(890060)	
38		胴部	② 13.8	台形 中央が 凹む			(外) 斜めハケ 平行タタキ (内) 板状工具による斜めナデ	横ナデ				④ 2mm以下の茶褐色、灰色の砂粒を多く含む 1mm以下のガラス状に光る粒子を少し含む ⑤良 好 ⑥にぶい橙 (7.5YR 7/4)		(890054)	
39		胴部	② 7.8	台形			(外) 斜めハケ (内) ナデ 指押さえ	横ナデ				④ 0.3~2mm大の褐色、灰色の砂粒、石英な どを含む。 ⑤良 好 ⑥橙 (5YR 7/6)		(890058)	
40		胴部	② 7.5	山形	有り		(外) ナデ 摩耗しているかハケの痕 跡あり (内) 斜めナデ	横ナデ				④ 2mm以下の茶褐色、灰色の砂粒を多く含む ⑤良 好 ⑥橙 (7.5YR 7/6)		(890076)	

(円筒植輪 5)

(cm) ②器高

番号	出土地	土点	残存部位	法量	形態の特徴		口縁部	技法の特高部		タガ	基底部	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調	備考																	
					タガ	透し孔		斜めハケ	特高部																					
第4図 41			胴部	② 8.5	台形 中央が 凹む			(外) 斜めハケ (内) ナデ 指押さえ	横ナデ		④ 3mm以下の光沢のある茶褐色の砂粒、灰色の砂粒を多く含む。2mm以下の黒色で光る粒子と透明の粒子を少し含む。 ⑤良好 ⑥橙 (7.5YR 7/6)	(890073)																		
													42	胴部	② 9.7	台形 有り		(外) 斜めハケ (内) ハケメ	横ナデ	④ 0.3~1.5mm大の暗褐色、白色、黒色で光る砂粒、石英片などを含む。 ⑤良好 ⑥こぶい橙 (7.5YR 7/4)	(890055)									
																						43	胴部	② 5.5	台形		(外) 摩擦のため調整不明 (内) ナデ	横ナデ	④ 2mm以下の茶褐色、灰色の砂粒を多く含む ⑤良好 ⑥橙 (7.5YR 7/6)	(890074)
45	胴部	② 10.5	台形 有り		(外) 斜めハケ (内) 斜めナデ	横ナデ	④ 3mm以下の茶褐色、褐色、灰色の砂粒を多く含む。1mm以下のガラス状に光る粒子を少し含む。 ⑤良好 ⑥橙 (5YR 7/6)	(890070)																						
									第5図 47			胴部	② 5	台形 中央が 凹む		(外) ナデ (内) ナデ	横ナデ	④ 2mm以下の茶褐色、灰色の砂粒を多く含む ⑤良好 ⑥橙 (7.5YR 7/6)	(890071)											
48	胴部	② 6.5	台形 有り		(外) 斜めハケ (内) 斜めハケ	横ナデ	④ 2mm以下の茶褐色の砂粒を多く含む。1mm以下のガラス状に光る粒子を少し含む。 ⑤良好 ⑥橙 (7.5YR 7/6)	(890078)																						
									49	胴部	② 7.5	台形		(外) 斜めハケ (内) ナデ	横ナデ	④ 0.3~2mm大の灰色、褐色、黒色などの砂粒を含む。 ⑤良好 ⑥橙 (5YR 6/6)	(890053)													
50	胴部	② 23.9	山形 2個 有り		(外) 斜めハケ (内) 横ナデ 斜めナデ	横ナデ	④ 4mm以下の灰色、白色(粉っぽい)の砂粒を多く含む。 ⑤良好 ⑥(外) 灰 (5Y 5/1) (内) 灰黄 (2.5Y 6/2)	タガ部の還元径 上のタガ23cm 下のタガ21.7cm (890050)																						
									50	胴部	② 30.8	台形 有り		(外) 斜めハケ (内) 斜めハケ 板状工具による斜めナデ	横ナデ	④ 0.5~3mmの白色、灰色、黒色の砂粒を含む。 ⑤良好 ⑥こぶい橙 (2.5Y 6/3, 6/4) 上のタガの上部付近のみ にぶい橙 (7.5YR 7/4)	(890049)													

(円筒植輪 6)

(cm) ②器高 ③底径

番号	出地点	土点	残存部位	法量	形状	タガ	形態の特徵	技法の筒部		タガ	基底部	④胎土 ⑤焼成 ⑥色調	備考
								口縁部	筒部				
第5図 51			胴部	② 15.5	山形 (変形)	有り	ナデ 斜めハケ (内) 斜めナデ		横ナデ		④ 2mm以下の茶褐色、灰色の砂粒を多く含む 1mm以下の黒色に光る粒子を少し含む。 ⑤良 好 ⑥(外) 淡黄 (2.5Y 8/3) (内) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	(890062)	
52			胴部	② 13.2	台形		(外) 斜めハケ (内) 斜めナデ 指押さえ		横ナデ		④ 1mm前後の灰色、茶褐色の砂粒を多く含む 1mm以下の黒く光る粒子、ガラス状に光る 粒子を少し含む。 ⑤良 好 ⑥にぶい黄橙 (10YR 7/3)	(890063)	
53			胴部	② 11.8	変形	有り	(外) 斜めハケ 工具によるナデの後、横 ナデ (内) ナデ 指押さえ		横ナデ		④ 2mm以下の灰色の砂粒を多く含む。1mm以 下のガラス状に光る粒子を少し含む。 ⑤良 好 ⑥(外) にぶい黄橙 (10YR 7/3) (内) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	(890065)	
54			胴部	② 8.4	方形		(外) 斜めハケ (内) 斜めハケ後、斜めナデ		横ナデ		④ 1mm前後の灰色の砂粒を多く含む。 ⑤良 好 ⑥(外) にぶい黄橙 (10YR 7/2) (内) 残黄橙 (7.5YR 8/4)	(890069)	
第6図 55			胴部	② 10.3	台形	有り	(外) ハケ 斜めハケ後、二部ナデ (内) 斜めハケ後ナデ 斜めナデ		横ナデ		④ 0.3~2mmの黒色、灰色、白色の砂粒を合 む。 ⑤良 好 (2.5Y 6/1) ⑥(外) 黄 灰 (2.5Y 6/3) (内) にぶい黄 (2.5Y 6/3)	(890067)	
56			胴部	② 5.2	山形	有り	(外) 斜めハケ (内) ナデ		横ナデ		④ 0.3~2mm大の白色、灰色の砂粒を含む。 ⑤良 好 (2.5Y 5/1) ⑥(外) 黄 灰 (2.5Y 5/1) (内) にぶい黄橙 (10YR 6/3)	(890068)	
57			胴部	② 5.4			(外) 縦ハケ 指ナデ (内) 指押さえ				④ 0.5~2mm大の灰色、黒色の砂粒を含む。 ⑤良 好 ⑥(外) にぶい黄橙 (10YR 6/3) (内) にぶい橙 (7.5YR 6/4)	内面に3条の平行 線のヘラ記号 が2ヶ所に有り (890080)	
58			胴部	② 11	台形 (丸味)		(外) 斜めハケ 平行タタキ (内) 工具による斜めナデ		横ナデ		④ 3mm以下の灰色、茶褐色の砂粒を多く含む。1mm 以下の乳白色の粒子とガラス状に光る粒子を少し 含む。 ⑤良 好 (7.5YR 7/6)、にぶい橙 (7.5YR 7/4) ⑥(外) 橙 (7.5YR 7/6)、にぶい橙 (7.5YR 7/4) (内) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	(890066)	
59			基部	② 20 ③ 22.0	"	第1タ ガの上 2.5cm の部位 (2ヶ所)	(外) 風化がすすんで いるが斜 めハケの痕跡あり (内) 指ナデの痕跡あり 指押さえ		横ナデ		④ 3mm以下の茶褐色、灰色、黒色の砂粒を多 く含む。 ⑤良 好 ⑥浅黄橙 (7.5YR 8/4)	植條のための窪 み3ヶ所 対、第1タガ径 22.4cm (890064)	
60			基部	② 22 ③ 20.3	"		(外) 斜めハケ 指状工具による斜めナデ (内) 軟状工具による斜めナデ ナデ、指ナデ、指押さえ		横ナデ		④ 0.5~2.5mm大の白色、灰色、褐色、黒色 等の砂粒を含む。石英片も含む。 ⑤良 好 (7.5YR 6/6) ⑥一部橙 (5YR 6/6)	第1タガ径 22.7cm (890066)	

(円筒植輪 7)

(cm) ②器高 ③底径

番号	出土地	出土点	残存部位	法量	形状 タガ径	口径	口縁部	技法	特徴		基底部	備考
									中	高		
第6図 61			基部	② 18.5	台形 (丸味)			(外) 斜めハケ 後、一部指押し、指ナデ (内) 板状工具による斜めナデ 指押し	ナデ	横ナデ	④ 0.5~4.5mm大の褐色、白色、灰色の砂粒や黒色で光る砂粒(礫石か?)、石英など多く含む。 ⑤良 好 ⑥橙 (5YR 7/6)	第1タガ径25cm (890005)
				③ 22.6								
62			基部	② 18.7				(外) 斜めハケ 平行タタキ 指押し (内) 斜めナデ 指押し	平行タタキ 指押し	平行タタキ	④ 2mm以下の茶褐色の砂粒と1mm以下のガラス状に光る粒子を多く含む。4mm以下の黒色砂粒、1mm以下の黒く光る粒子を少し含む。 ⑤良 好 ⑥淡黄橙 (7.5YR 8/4)	(890008)
				③ 25.15								
第7図 63			基部 胴部	② 24.5	山形			(外) 風化がすすんでいるが第1段下半部には、タタキの痕跡あり (内) 風化。指押しによる痕跡あり	風化	タタキ	④ 1~4mm大の茶褐色の砂粒を多く含む。2mm大の乳白色、ガラス状に光る砂粒を少し含む。 ⑤良 好 ⑥橙 (5YR 7/6)	タガ部復元径25.5cm (890003)
				③ 21.65								
64			基部 胴部	② 27	台形		(外) 斜めハケ 板状工具によるナデ 指押し (内) 斜めナデ 指押し	横ナデ	横ナデ	タタキ後 ナデ	④ 0.5~4mm大の暗褐色で光沢のある砂粒、白色、黒色、灰色の砂粒を含む。石英粒も含む。 ⑤良 好 ⑥橙 (5YR 6/6)	第1タガ径25.5cm (890001)
				③ 21.4								
65			基部	② 20	台形		(外) 斜めハケ、板状工具による斜めナデ 指押し (内) 板状工具による斜めナデ 指押し (後についていない)	横ナデ	横ナデ	指ナデ	④ 0.5~2.3mm大の暗赤褐色でつやのある砂粒を含む。ほか、白色、灰色、淡黄色で軟質の砂粒を含む。 ⑤良 好 (7.5YR 7/6) ⑥ (外) 橙 (7.5YR 7/6) (内) 橙 (5YR 6/6)	(890002)
				③ 23.8								
66			基部	② 20.2	台形		全体に風化がすすむ。 (外) 斜めハケ、板状工具による斜めナデ 指押し (内) 斜めナデ 指押し	横ナデ	横ナデ	タタキ後 ナデ	④ 1~3mm以下の茶褐色、灰色、黒色の砂粒を多く含む。 ⑤良 好 ⑥ (外) 橙 (7.5YR 6/6) (内) 橙 (7.5YR 7/6)	(890010)
				③ 24.5								
67			基部	② 8.9			(外) 平行タタキの後、一部板状工具による斜めナデ (内) 板状工具による斜めナデ 指押し	指ナデ	指ナデ	指ナデ	④ 0.5~2mm大の灰色、褐色、黒色の砂粒を含む。 ⑤良 好 ⑥ 一部橙 (5YR 6/6) 一部橙 (5YR 7/6)	(890007)
				③ 24.5								
68			基部	② 9			(外) 板状工具による斜めナデ 指押し (内) 斜めナデ 指押し	ナデ	ナデ	ナデ 植物痕あり	④ 1mm以下の黒く光る砂粒を多く含む。1mm以下のガラス状に光る砂粒を少し含む。 ⑤良 好 ⑥橙 (5YR 6/6)	(890019)
				③ 9								
69			基部	② 16.2			(外) 風化により調整不明 (内) 指押しによる痕跡あり	調整不明	調整不明	調整不明	④ 1~3mm以下の灰色の砂粒を多く含む。2mm以下の透明度のある砂粒を少し含む。 ⑤良 好 ⑥淡黄橙 (7.5YR 8/6)	(890012)
				③ 16.2								
第8図 70			基部	② 8.7			(外) 板状工具による斜めナデ 指押し (内) 斜めナデ 指押し	ナデ	ナデ	ナデ	④ 3mm以下の灰色、赤褐色の砂粒を多く含む。2mm以下の黒く光る砂粒を少し含む。 ⑤良 好 ⑥橙 (5YR 7/6)	(890015)
				③ 8.7								

(円筒植輪 8)

(cm) ②器高 ③底径

番号	出土地点	残存部位	法量	形状	特徴		タガ	基部	④胎土	⑤焼成	⑥色調	備考
					形態	特徴						
第6図 71		基部	② 6.6	台形	口縁部	口縁部	ナデ 植物痕あり		④ 3mm以下の茶褐色、灰色の砂粒をかなり多く含む。 ⑤ 良好 ⑥ 浅黄橙 (10YR 8/3)		(890021)	
72		基部	② 9				ナデ		④ 2mm以下の灰色、茶褐色の砂粒を少し含む ⑤ 良好 ⑥ ぶい橙 (5YR 7/4)		(890022)	
73		基部	② 8.5				ナデ		④ 2mm大以下の褐色、灰色の砂粒を多く含む 1mm以下のガラス状に光る粒子を少し含む ⑤ 良好 ⑥ 浅黄橙 (7.5YR 8/6)		(890018)	
74		基部	② 9.4				ナデ		④ 5mm以下の茶褐色、4mm以下の灰色の砂粒を多く含む。3mm以下の黒色と赤みのある砂粒を少し含む。1mm以下の黒く光る砂粒と1mm以下のガラス状に光る粒子を少し含む。 ⑤ (外) 茶褐色 (7.5YR 8/6) ⑥ (内) 茶褐色 (10YR 8/4)		(890017)	
75		基部	② 4.7				ナデ		④ 2mm以下の灰色の砂粒を多く含む。1mm以下の透明度のある砂粒と茶褐色の砂粒を少し含む。 ⑤ 良好 ⑥ 浅黄橙 (10YR 8/4)		(890020)	
76		基部	② 29 ③ 21.3 (復元径)	台形			タタキ後 ナデ (一部タタキ残存)	横ナデ	④ 全体にやや粗い。0.5~4mm大の白色で硬質の砂粒と、灰色の砂粒を含む。 ⑤ 灰土、灰土、褐色、赤褐色、黒褐色の入り。 ⑥ 上部は黒褐色、下部は赤褐色。 ⑦ ぶい黄 (2.5Y 6/3) ⑧ ぶい黄 (2.5Y 5/2) 暗灰黄	第1タガ復元径 27.5cm 第2タガ復元径 26.1cm (890009)		
77		基部	② 13.7 ③ 18.8 (復元径)	台形			ナデ (一部タタキ残存)	横ナデ	④ 3mm以下の暗赤褐色、褐色、灰色の砂粒と1mm以下のガラス状に光る砂粒を多く含む ⑤ 良好 ⑥ 橙 (5YR 7/6)		(890011)	
78		基部	② 10.5 ③ 20.2 (復元径)				ナデ		④ 3mm以下の灰色の砂粒を多く含む。2mm以下の白色砂粒を少し含む。 ⑤ 良好 ⑥ (外) ぶい黄橙 (10YR 7/4) (内) ぶい黄橙 (7.5YR 7/4)		(890013)	
79		口縁部	② 3.9		端部		横ナデ ナデ (一部ナデ) ナデ		④ 3mm以下の茶褐色の砂粒と、1mm以下のガラス状に光る粒子を多く含む。2mm以下の黒く光る砂粒を少し含む。 ⑤ 良好 ⑥ 橙 (5YR 7/6)		(890036)	
80		口縁部					ナデ (一部ナデ) ナデ		④ 0.5~3mm大の褐色で硬質の砂粒、灰色、白色の砂粒などを含む。 ⑤ 良好 ⑥ (外) 黄橙 (10YR 8/6) (内) 橙 (5YR 7/8)		(890083)	

(形象埴輪 1)

(cm) ①最大高 ②最大長 ③最大幅

番号	出土地	種類	法量	形態の特徴	技法の特徴	④胎土・⑤焼成・⑥色調	備考
第8図 81		人 (腕か?)	② 6.7 ③ 3.9	上方(?)に突帯あり。	剥離、摩擦がすすみ調整不明	④ 2mm以下の茶褐色の砂粒と、3.5mm以下の黒灰色の砂粒を多く含む。また1mm以下の黒色で光る砂粒も含む。 ⑤長好 (5YR 7/6) ⑥長好 (5YR 7/6)	(890103)
82		人 (腕か?)	② 5.8 ③ 2.7	上方(?)に2本の沈線あり。	かなり剥離しているが残存部は、ていねいなナデが施されている。	④ 1mm以下の灰色、褐色の砂粒と、ガラス状好 (5YR 7/6) ⑤長好 (5YR 7/6) ⑥長好 (5YR 7/6)	(890104)
83		人 (装飾)	② 9.5 ③ 5.9	5mm幅の台形の弁帯が滴状に貼付されている。その下に2本の沈線を施す。	外面 かなり剥離しているが残存部は、ナデが施されているが剥離のため調整不明 内面 剥離のため調整不明	④ 0.5~1.5mm大の褐色、灰色の砂粒を含む ⑤やや軟質 (5YR 6/8) ⑥外面 黄橙 (7.5YR 7/8) ⑥内面 黄橙 (7.5YR 7/8)	(890109)
84		人 (脇部か?)	① 5.5 ② 6.55	胸部と腕部の縦目、脇部にあたるところに2本の沈線を施す。	ナデ 指押さえ	④ 0.5~1mm大の褐色、灰色の砂粒と石英片を含む。 ⑤長好 (7.5YR 8/4) ⑥長好 (7.5YR 8/4)	沈線部とその周辺に赤色顔料付着 (890105)
第9図 85		人 (手)	① 4.6 ② 8.5 ③ 4.2	装飾なし。親指現存。その他の指は欠損。	指・掌は指ナデ 指押さえ 指ナデ 指ナデ 指ナデ 指ナデ	④ 0.5~1mm大の灰色、褐色の砂粒、微細な黒色の光沢のある粒子を含む。右英細片を含む。 ⑤長好 (7.5YR 7/6) ⑥長好 (7.5YR 7/6)	(890107)
86		人 (手)	① 4.8 ② 8.7 ③ 4.7	装飾なし。中指現存。その他の指は途中欠損。	指・掌は指ナデ 指押さえ 指ナデ 指ナデ	④ 0.2~0.5mmの光沢のある黒色の砂粒、褐色、灰色の砂粒を含む。 ⑤長好 (7.5YR 7/6) ⑥長好 (7.5YR 7/6)	(890106)
87		人 (手)	① 3.7 ② 7.8 ③ 4.1	装飾なし。指は全て欠損。	指・掌は指ナデ 指押さえ 指ナデ	④ 0.2~0.5mmの光沢のある黒色の砂粒、1mm大の褐色の砂粒を含む。右英も混じる。 ⑤長好 (7.5YR 7/6) ⑥長好 (7.5YR 7/6)	(890108)
88		動物 (脚部)	① 14 ③ 8	円筒形。底部端部がわずかにひらく。	外面 タテ方向ハケメ 内面 板状工具によるナデ。粗雑	④ 全体に砂粒は少い。微細な砂粒を若干含む ⑤長好 (7.5YR 7/6) ⑥外面 黄橙 (10YR 8/4) ⑥内面 黄橙 (7.5YR 7/8)	酸化鉄粒を含む (890097)
89		動物 (脚部)	① 14.2 ③ 8.3	"	外面 ナデ 大部分が摩擦により調整不明 内面 ナデ	④ 1~2mm大の灰色、褐色の砂粒を若干含む ⑤長好 (10YR 8/4) ⑥外面 黄橙 (10YR 7/4) ⑥内面 黄橙 (10YR 7/4)	酸化鉄粒を含む (890092)
90		動物 (脚部)	① 9.5 ③ 6.8	"	外面 タテ方向ハケメ 内面 上部ていねいな横ナデ 下部ナデ	④ 0.2~2mm程度までの黒色、褐色、灰色等の砂粒を含む。 ⑤長好 (2.5Y 8/3) ⑥長好 (2.5Y 8/3) ⑥内面 上部のみ にぶい橙 (5YR 7/4)	(890098)

(形象植輪 2)

(cm) ①最大高 ②最大長 ③最大幅

番号	出地	土点	種類	法量	形態の特徴	技法の特徴	④胎土・⑤焼成・⑥色調	備考
第9図 91			動物 (脚部)	① 5.5 ③ 7	円筒形 底部端部がわずかにひらく。	外面 タテ方向ハケメ ナデ 内面 ナデ	④ 1.5mm大の褐色の砂粒を若干含む。 ⑤ 好 ⑥ 京黄 (2.5YR 8/4) ⑦ 外面 淡黄橙 (7.5YR 8/6) ⑧ 内面	酸化鉄粒含む (890099)
92			動物 (脚部)	① 28 ③ 8.7	"	外面 タテ、斜め方向ハケメ 内面 横ナデ	④ 微細な砂粒を若干含む。 ⑤ 好 ⑥ 良 (7.5YR 7/6)	酸化鉄粒含む (890091)
93			動物 (脚部)	① 22.4 ③ 8.75	"	外面 タテ方向のハケメ 内面 ナデ	④ 砂粒はほとんど含まない。 ⑤ やや軟質 ⑥ 橙 (5YR 7/6)	酸化鉄粒含む (890093)
94			動物 (脚部)	① 22.4 ③ 8.7	"	外面 剝離、メの痕跡あり ハケメ、指押さえ 内面 ナデ 指押さえ	④ 3mm以下の茶褐色、灰色の砂粒を多く含む ⑤ 2mm以内の黒色で光る砂粒を少し含む。 ⑥ 良 好 ⑦ 内面 上 半 淡黄橙 (7.5YR 8/6)	サンドパイプ1 個含む (径7mm 長さ15mm) (890094)
95			動物 (脚部)	① 17.9 ③ 8	"	外面 タテ方向、斜方向のハケメ 内面 指ナデ、指押さえ	④ 全体に砂粒が少い。微細な黒色、灰色の粒 字が若干混じるのみ。 ⑤ 良 好 ⑥ 直にぶい橙 (7.5YR 7/4) ⑦ 内面 上 半 淡黄橙 (10YR 8/4)	酸化鉄粒含む (890096)
96			動物 (脚部)	① 13.8 ③ 8.8	"	摩擦著しく調整不明	④ 4mm以内の茶褐色、灰色の砂粒を多く含む。 ⑤ 良 好 ⑥ 淡黄橙 (7.5YR 8/6)	サンドパイプ1 個含む (6×7.5mm) (890095)
第10図 97			動物 (脚部)	① 6.8 ③ 4.2	円筒形の短脚 底部端部は筒状になる。	外面 タテ方向ナデ 内面 ナデ	④ 2mm以下の黒色で光る砂粒とガラス状に光る 砂粒を多く含む。4mm大の褐灰色砂粒と3mm 大、黒く透明度のある砂粒を含む。 ⑤ 良 好 ⑥ 外面 淡黄 (2.5Y 8/3) 淡黄橙 (10YR 8/3) ⑦ 内面 淡黄橙 (10YR 8/3)	(890089)
98			動物の (額面)	② 9.6 ③ 9	偏平? 目と恵られる穿孔が2ヶ所に見ら れる。	外面 摩擦のため調整不明 内面 指押さえ	④ 2mm大程度までの褐色、灰色の砂粒と0.3 ~0.8mm大の黒色で輝きのある砂粒、およ び石英片を多く含む。 ⑤ やや軟質 ⑥ 淡黄橙 (7.5YR 8/6)	(890100)
99			動物の (額面)	② 12 ③ 9.2	偏平 未完成の穿孔?が1ヶ所	外面 ハケメ 内面 指押さえ	④ 0.5~3mmの褐色で硬質の砂粒、0.3~1.5 mmの灰色の砂粒、1mm大程度までの黒色で 輝きのある長方形の砂粒、および石英片を 含む。 ⑤ 良 好 ⑥ 橙 (5YR 7/6)	(890102)
100			動物の (額面)	② 8 ③ -	穿孔1ヶ所がみられる 偏平	外面 ハケメ 内面 ナデ	④ 0.5~1.5mm大の褐色、灰色の砂粒と0.3 ~0.8mm大の黒色で輝きのある長方形の砂 粒を含む。 ⑤ 良 好 ⑥ 橙 (5YR 7/6)	(890101)

(形象埴輪 3)

(cm) ①最大高 ②最大長 ③最大幅

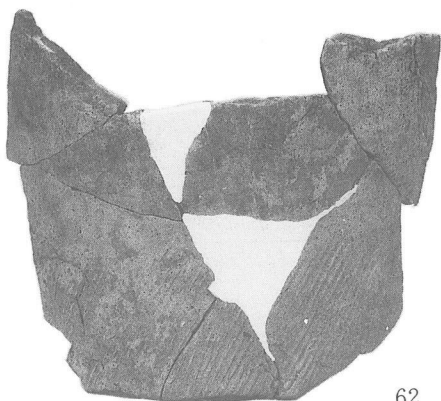
番号	出地	土点	種類	法量	形態の特徴	技法の特徵	④胎土・⑤焼成・⑥色調	備考
第10図 101			舟	① 8.15 ② 19.5 ③ 6.2	側板に2条の弧状と鋸歯状の沈線 を施す。 舟底部と支材の一部残る。	ナデ、指押さえ	④ 0.5~2mm大の褐色、灰色の砂粒と0.5mm 大の石英、黒色で輝きのある砂粒を含む。 ⑤良橙 (5YR 6/8)	右側面舟首にあ たる。 (890114)
102			舟	① 4.5 ② 9 ③ 7.4	側板と舟底部の支材の一部が残る。	表面摩擦のため調整不明	④ 1~1.5mmの褐色、灰色、白色の砂粒と石 夾片を含む。 ⑤良橙 (7.5YR 7/8)	左側面舟尾にあ たる。 酸化鉄粒含む (890113)
103			蓋?	① 2.5 ② 5.3 ③ 13.5	2条の弧状と鋸歯状の沈線を施す	横ナデ ハケケメ、ナデ ナデ	④ 0.5~2mmの褐色、灰色の砂粒と微細な黒 色で輝きのある砂粒を含む。 ⑤良橙 (7.5YR 7/6)	復元底径は 約22cm (890112)
104			蓋?	① 2.95 ② 4 ③ 5.3	"	横ハケケメ ナデ ナデ	④ 0.5mm前後の灰色の砂粒を含む。 ⑤良自然釉の部分のみ極灰(5YR 4/1) 灰黄 (2.5Y 6/2)	(890088)
105			楯?	② 6 ③ 4.5	2条の平行沈線と弧状の沈線有り。	表面摩擦のため調整不明	④ 0.3~0.8mm大の灰白色、褐色、黒色の砂 粒を含む。 ⑤良橙 (5YR 7/8)	(890116)
106			不 明	② 3.9 ③ 3	2条の平行沈線と鋸歯状の沈線有 り。	端部 外面 内面 横ナデ 斜ナデ 斜ナデ 斜ナデ	④ 0.5~1mm大の褐色、灰色の砂粒を少し含 む。石英も混じる。 ⑤良橙 (5YR 6/6)	(890046)
107			不 明	② 5.5 ③ 8	三角形の突帯の上方に、タテ方向 の2条の沈線が3ヶ所に施されて いる。	横ナデ 斜ナデ 斜ナデ 指押さえ	④ 0.3~1.5mm程度までの灰色、褐色、白色 黒色などの砂粒を含む。石英片も混じる。 ⑤良黄橙 (10YR 8/6)	(890081)
108			不 明	② 5 ③ 4.3	2条の平行沈線と弧状の沈線有り。	端部 外面 内面 ナデ ナデ	④ 0.5mm大の褐色、灰色の砂粒を少し含む。 ⑤良黄橙 (10YR 8/4)	(890084)
109			不 明	② 6.3 ③ 7.7	三角状の器材? 側面に1条の沈線を施す。 やや反る。	横ハケケメ 不定方向ハケケメ タテ方向ハケケメ	④ 0.5mm程度までの褐色、黒色で輝きのある 砂粒、石英片などを含む。 ⑤良橙 (5YR 6/8)	(890087)
110			不 明	② 6 ③ 8.3	三角状の器材?	摩擦のため調整不明	④ 0.3~2.5mm大の褐色、灰色の砂粒と0.5 mm程度までの黒色で輝きのある砂粒や石英 片などを多く含む。(7.5YR 6/4) ⑤にぶい橙にぶい黄橙 (10YR 6/3)	(890086)

図

版



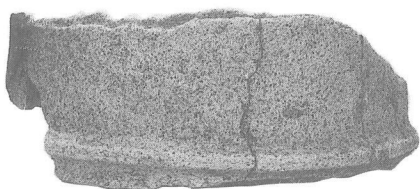
円筒埴輪 (1)



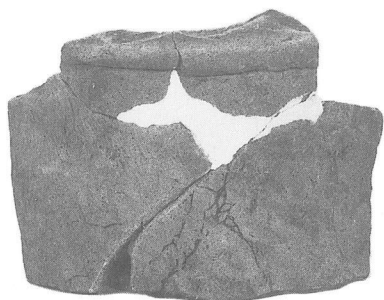
62



59



28



60



61

円筒埴輪 (2)



63



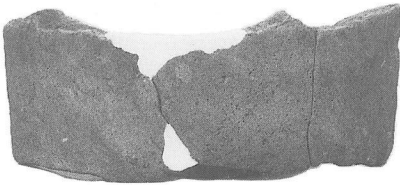
64



65



66



67

円筒埴輪 (3)

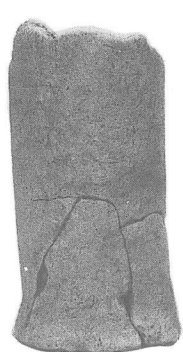


85

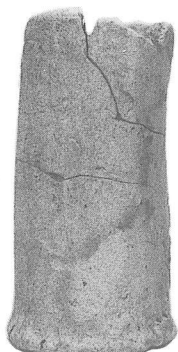
86

87

形象埴輪 (人物・手)



88



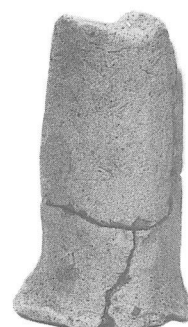
89



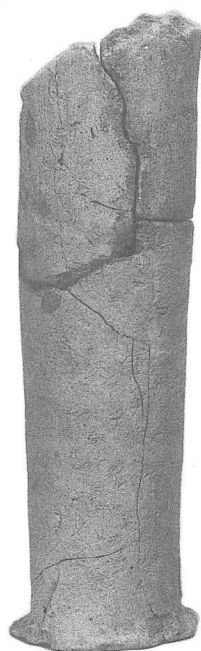
90



91



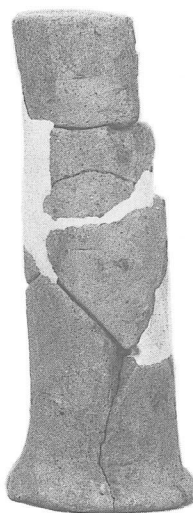
96



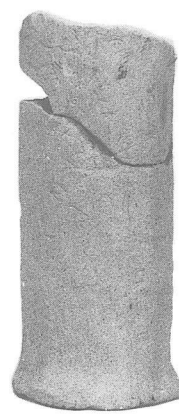
92



93



94

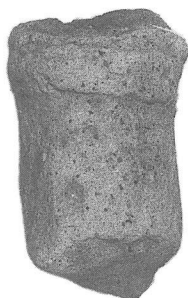


95

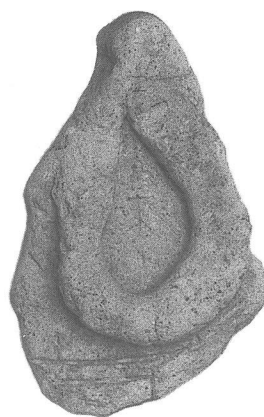
形象埴輪（動物・脚）



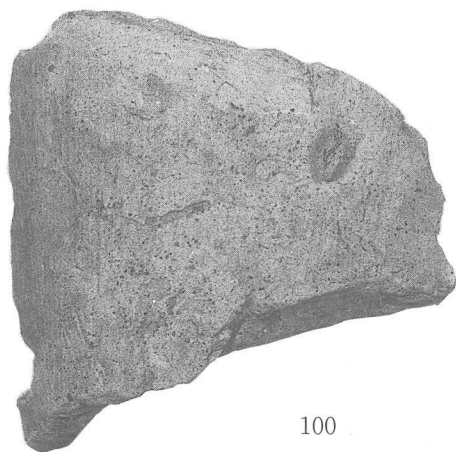
82



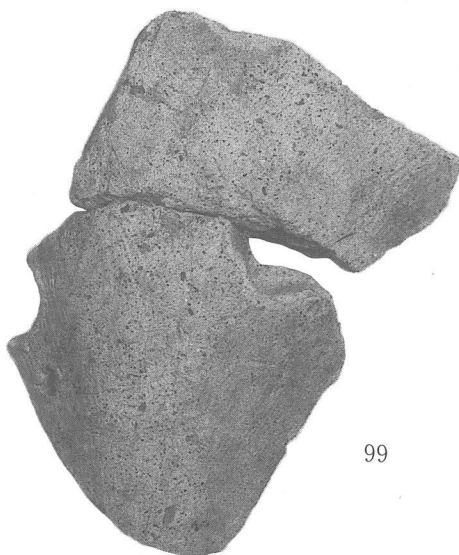
81



83



100



99

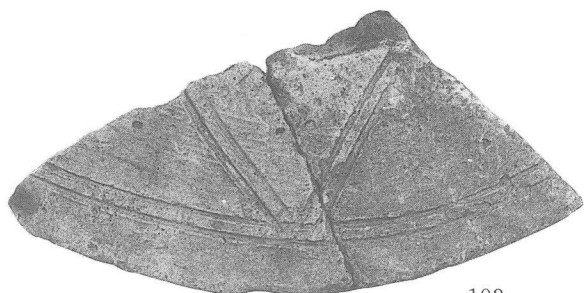
形象埴輪（人物・動物）



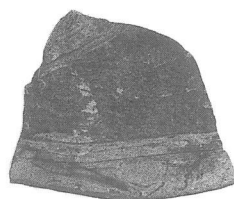
18



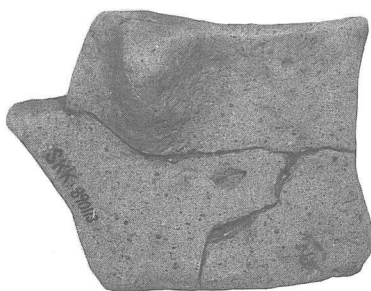
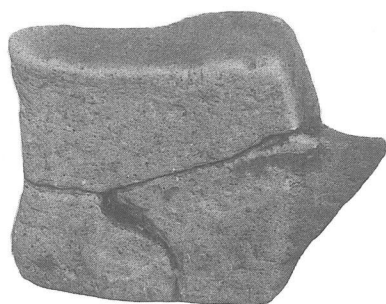
105



103

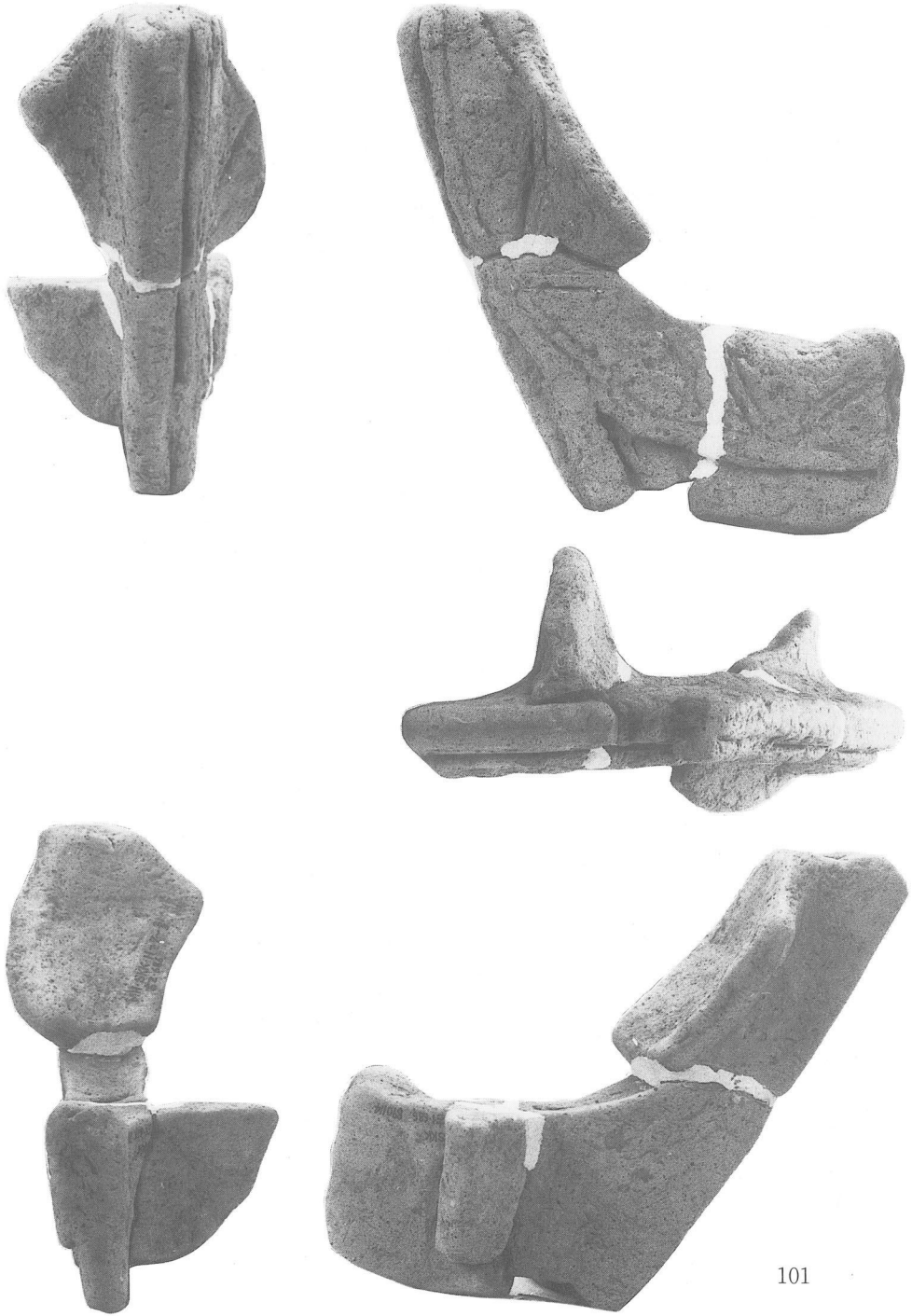


104



102

円筒埴輪・形象埴輪



101

形象埴輪（舟）

埋蔵文化財調査研究報告Ⅲ

発行日 平成 2 年 3 月 3 1 日

編 集 宮崎県総合博物館埋蔵文化財センター

発行者 宮 崎 県 総 合 博 物 館

印 刷 (有)印刷センター **ク ロ タ**